

学際基礎科目・人文科学系			
哲学思想史 a		佐野 好則	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>通年(a,b)の登録が望ましい	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ>西洋古代中世の哲学思想史を概観する。			
<到達目標>各哲学者の思想を他の哲学者の思想との関連に注目して理解する。神学の背景としての哲学の重要性を認識する。			
<授業の概要>講義とディスカッションを通して、各哲学者の思想の特徴や相互の関連性を検討する。			
<履修条件>学部1，2年を主な対象学年とする。			
<授業計画>			
第1回 哲学の始まり：ヘシオドスの神話的思考からミレトス派の哲学的思考への発展を考察する。 文献：ヘシオドス『神統記』、アリストテレス『形而上学』（授業内にプリント配布）			
第2回 タレス、アナクシマンドロス、アナクシメネス：ミレトス派の自然哲学を考察する。 文献：タレス断片、アナクシメネス断片、アナクシメネス断片(授業内にプリント配布)			
第3回 ピタゴラス派、ヘラクレイトス、パルメニデス：ミレトス派自然哲学の展開を考察する。 文献：ピタゴラス派断片、ヘラクレイトス断片、パルメニデス断片(授業内にプリント配布)			
第4回 エムペドクレス、アナクサゴラス、原子論：パルメニデスの影響下の自然哲学の展開を考察する。 文献：エムペドクレス断片、アナクサゴラス断片、原子論断片(授業内にプリント配布)			
第5回 ソフィスト達とソクラテス：人間を中心とするソクラテスの哲学とその背景を考察する。 文献：作者不明『両論』、プラトン『ソクラテスの弁明』『ゴルギアス』（授業内にプリント配布）			
第6回 プラトン(1)：イデア論の基盤を哲学諸派との関連に注目して考察する。 文献：プラトン『メノン』、『パイドン』、『国家』（授業内にプリント配布）			
第7回 プラトン(2)：イデア論の展開を考察する。 文献：プラトン『パルメニデス』、『ティマイオス』（授業内にプリント配布）			
第8回 アリストテレス(1)：実体論の基盤をプラトンの哲学との関連に注目して考察する。 文献：アリストテレス『形而上学』（授業内にプリント配布）			
第9回 アリストテレス(2)：実体論の展開、倫理学を考察する。 文献：アリストテレス『政治学』、『ニコマコス倫理学』（授業内にプリント配布）			
第10回 ストア派、エピクロス派：ヘレニズム哲学における新しい傾向の哲学諸派を考察する。 文献：ストア派断片、エピクロス『メノイケウス宛の手紙』（授業内にプリント配布）			
第11回 プロティノス：ローマ時代におけるプラトン派哲学の展開を考察する。 文献：プロティノス『エンネアデス』（授業内にプリント配布）			
第12回 アウグスティヌス(1)：新プラトン主義の影響を中心に考察する。 文献：アウグスティヌス『告白』、『教師論』（授業内にプリント配布）			
第13回 アウグスティヌス(2)：哲学的諸概念の神学的応用を考察する。 文献：アウグスティヌス『告白』、『神の国』（授業内にプリント配布）			
第14回 アンセルムス、トマス・アクィナス：スコラ哲学における哲学諸派の受容を考察する。 文献：アンセルムス『モノロギオン』、トマス・アクィナス『神学大全』（授業内にプリント配布）			
第15回 総括			
<準備学習等の指示>各哲学者による著作の抜粋を読み、内容について検討しておくことが予習として課される。			
<テキスト>テキストとなる各哲学者の著作の抜粋をプリントして毎回配布する。			
<参考書・参考資料等>A.H.アームストロング『古代哲学史』みすず書房、1989年 内山／中山編『西洋哲学史、古代・中世篇』ミネルヴァ書房、1996年 熊野純彦『西洋哲学史、古代から中世へ』岩波新書、2006年			
<学生に対する評価（方法・基準）>出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。評価は授業でのディスカッションへの参加とレポート提出により、各哲学者の思想の理解、および相互の関連性の理解の到達度を基準とする。			

学際基礎科目・人文科学系		
哲学思想史 b	矢嶋 直規	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 近代ヨーロッパ哲学・倫理学宗教哲学の主要なテーマを、信仰と教会形成をめぐる議論として考察し、キリスト教の思想的理解を深める。		
<到達目標> 近代ヨーロッパにおけるキリスト教の歴史の理論的背景ともいえる主要な哲学思想を単に文化史としてではなく、哲学そのものの学びとして習得する。主要哲学者の理論をキリスト教信仰と関連づけて理解し、それを自身の言葉で説明できるようになる。		
<授業の概要> デカルト、スピノザ、ライプニッツ、ホッブズ、ロック、パークリ、ハチソン、バトラー、ヒューム、カントなどの哲学・倫理思想をとりわけキリスト教信仰に関連付けて概観する。		
<履修条件> 特にもうけません。		
<授業計画> 第1回 近代哲学概観 第2回 デカルトの人間の立場と二元論 第3回 デカルトからスピノザの自然の立場 第4回 スピノザの神即自然 第5回 ライプニッツの弁神論 第6回 ホッブズの道徳論と自然法 第7回 ホッブズの国家論 第8回 ホッブズの宗教論 第8回 ロックの社会契約とキリスト教の合理性の理論 第10回 バトラーの啓示宗教擁護と理神論批判 第11回 パークリとヒュームの認識論 第12回 ヒュームの道徳論 第13回 ヒュームの自然宗教批判 第14回 イギリス経験論へのカントの応答 第15回 まとめ、近代哲学から現代哲学へ 最終試験		
<準備学習等の指示> 授業は講師からの一方通行的な講義ではなく、学生の発表と議論を取り入れる。		
<テキスト> 毎回の授業の前に配布もしくは指定する。		
<参考書・参考資料等> 宗像 恵 (著), 中岡 成文 (著),『西洋哲学史 近代編—科学の形成と近代思想の展開』、ミネルヴァ書房、1995。 Steven M. Emmanuel, <i>The Blackwell Guide to the Modern Philosophers: From Descartes to Nietzsche</i> (Blackwell Philosophy Guides) 1991.		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業では発表と最終レポートを総合して評価する。		

学際基礎科目・人文科学系			
キリスト教と世界史 b		小宮 正安	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞いわゆる「西洋クラシック音楽」を文化史的な視点から捉えることを通じて、中世から現代にいたるヨーロッパの歴史を俯瞰しながら、キリスト教文化の変遷やヨーロッパの文化の特質を学びます。			
＜到達目標＞音楽社会史・音楽文化史的な視点から、キリスト教文化の変遷やヨーロッパの文化の特質を学び、知識を深めることができます。			
＜授業の概要＞中世から現代にいたるいわゆる「西洋クラシック音楽」の変遷を文化史的に辿りながら、それぞれの時代における宗教観や社会観について、芸術史、科学史、社会史等の視点も織り交ぜつつ、ヨーロッパの社会や文化の奥底に渦巻くものを学んでゆきます。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 1. イントロダクション・概論 2. 中世の身体観とグレゴリオ聖歌の興隆（～15世紀） 3. ルネッサンスのパラダイム転換と音楽の変容①（16世紀前半） 4. ルネッサンスのパラダイム転換と音楽の変容②（16世紀後半） 5. バロックの「揺り戻し」と複雑化する音楽①（17世紀前半） 6. バロックの「揺り戻し」と複雑化する音楽②（17世紀後半） 7. ロココと啓蒙主義が音楽にもたらしたもの①（18世紀前半） 8. ロココと啓蒙主義が音楽にもたらしたもの②（18世紀後半） 9. 市民社会の到来と音楽の神格化①（1800～1825） 10. 市民社会の到来と音楽の神格化②（1825～1850） 11. 市民社会の成熟と拡大する音楽①（1850～1875） 12. 市民社会の成熟と拡大する音楽②（1875～1900） 13. ヨーロッパの危機と音楽の新時代①（20世紀前半） 14. ヨーロッパの危機と音楽の新時代②（20世紀後半） 15. 総論・まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 授業内で指示した内容を予習してきてください。			
＜テキスト＞ 『名曲誕生 時代が生んだクラシック音楽』小宮正安著（山川出版社）			
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で教員が指示します。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加度、レポートや試験を総合的に見ながら、特に次の3点（講義の内容や教師のコメントを理解しているか、発表やレポートは論理的か、主体的に考えられるか）に基づき評価します。			

学際基礎科目・人文科学系、専門教育科目選択換算		
キリスト教と芸術 1 美術史 a	真下 弥生	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 美術／造形芸術表現をさまざまな角度から鑑賞・分析する。		
<到達目標> 美術／造形芸術表現を、自身の目や視覚以外の感覚、これまでの経験や未知の可能性をも動員して、多角的・批判的に分析する視点を培う。		
<授業の概要> 美術（主に視覚を用いて鑑賞する造形芸術表現）における多角的な分析方法を、実習を交えながら学ぶ。キリスト教に関わる美術作品のみならず、他宗教、非宗教の作品も幅広く比較しながら、広い視野で作品に向き合い、さまざまな角度から検討する。		
<履修条件> 高等学校課程の歴史（世界史、日本史、他）の学習経験があることが望ましいが、未履修者も歓迎する。		
<授業計画> （予定。受講生の関心に合わせて変更する可能性がある） 第1回 オリエンテーション、「美術」とは何か 第2回 「美術」とは何か（続）、美術表現の多様性 第3回 「キリスト教美術」とは何か 第4回 美術表現の分析 1・絵画／二次元作品を元に：構図—まず観察すること 第5回 美術表現の分析 2：主題 第6回 美術表現の分析 3：歴史的背景・コンテキスト 第7回 美術表現の分析 4：素材・技法 第8回 美術表現の分析 5：展示方法・見せ方 第9回 美術表現の分析 6：総合演習 第10回 彫刻・三次元作品 1：分析手法の応用 第11回 彫刻・三次元作品 2：公共空間と美術 第12回 工芸：応用美術 第13回 建築（礼拝堂建築）1：草創期 第14回 建築（礼拝堂建築）2：中世・近代 第15回 建築（礼拝堂建築）3：現代 定期試験		
<準備学習等の指示> 好奇心と柔軟な思考をもって、授業に臨んでほしい。美術館やギャラリーに積極的に足を運び、芸術表現に親しむことを勧める。また、授業を通して、学問的誠実性（academic integrity）の姿勢を培うことを期待する。		
<テキスト> なし（講義ではスライドを映写し、プリントを配布する）		
<参考書・参考資料等> 講義内で指定する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末試験（50%）、美術展のレポート（50%）を総合して評価する。試験は、講義内容の理解度を確認し、美術展レポートは、作品や展覧会から受けた印象および踏み込んだ分析を、自分の言葉で記述することを目的に行う。 出席が全体の 2/3 に満たない場合は、評価の対象としない。		

学際基礎科目・人文科学系、専門教育科目選択換算			
キリスト教と芸術 1 美術史 b		真下 弥生	＜担当形態＞ 単独
後期・2 単位		＜登録条件＞前期 a の履修を前提とするが、未履修者も可	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ キリスト教文化と美術／造形芸術表現の相互の関わりを探究する。			
＜到達目標＞ キリスト教に関わる文化の諸相を、美術／造形芸術表現を注意深く分析・検討することを通して探究する。			
＜授業の概要＞ 前期で学んだ美術／造形芸術表現の分析手法を基盤に、キリスト教世界の文化、その底流に流れる精神のありようを探究。日本をはじめとする、非欧米圏におけるキリスト教に関わる美術作品や、伝統的な美術表現の枠を更新・横断する現代美術も取り上げ、現代社会におけるキリスト教の姿をも検討する。			
＜履修条件＞ 前期 a の履修を前提とした内容となるが、未履修者は相談に応じる。 また、高等学校課程の歴史（世界史、日本史、他）の学習経験があるとよいが、未履修者も歓迎する。			
＜授業計画＞ （予定。受講生・後期からの新規受講生の関心に合わせて変更する可能性がある） 第 1 回 オリエンテーション、前期講義の復習、「美術」「キリスト教美術」とは何か 第 2 回 西欧キリスト教美術の歴史の流れ 1：初期、ビザンチン 第 3 回 西欧キリスト教美術の歴史の流れ 2：10－16 世紀 第 4 回 西欧キリスト教美術の歴史の流れ 3：17－20 世紀 第 5 回 日本のキリスト教美術 1：安土桃山・江戸時代 第 6 回 日本のキリスト教美術 2：明治時代以降 第 7 回 キリスト教美術と素材 第 8 回 物語とキリスト教美術 1：視覚芸術表現を通して物語を語るということ、旧約聖書物語 第 9 回 物語とキリスト教美術 2：旧約聖書物語 第 1 0 回 物語とキリスト教美術 3：新約聖書物語（イエスの生涯） 第 1 1 回 物語とキリスト教美術 4：新約聖書物語（イエスの生涯） 第 1 2 回 物語とキリスト教美術 5：新約聖書物語（イエスの誕生） 第 1 3 回 物語とキリスト教美術 6：聖人伝説・伝承 第 1 4 回 現代社会とキリスト教美術 1：伝統的表現の蓄積 第 1 5 回 現代社会とキリスト教美術 2：現代社会の諸問題と美術の応答 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 好奇心と柔軟な思考をもって、授業に臨んでほしい。美術館やギャラリーに積極的に足を運び、芸術表現に親しむことを勧める。また、授業を通して、学問的誠実性（academic integrity）の姿勢を培うことを期待する。			
＜テキスト＞ なし（講義ではスライドを映写し、必要に応じてプリントを配布する）			
＜参考書・参考資料等＞ 講義内で指定する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 学期末試験（50％）、美術展のレポート（50％）を総合して評価する。 試験は、講義内容の理解度を確認し、美術展レポート（前期と異なり、後期は展覧会を指定する）は、作品や展覧会全体から受けた印象および踏み込んだ分析を、自分の言葉で記述することを目的に行う。 出席が全体の 2/3 に満たない場合は、評価の対象としない。			

学際基礎科目・社会科学系			
法と人権 1 法学概論		松田 浩道	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ>受講生の関心にあわせて「法と人権」に関する文献を読んでいます。映画や新聞記事なども利用しつつ、現代社会で実際に生じている問題と「法と人権」との関連を考えます。			
<到達目標> 1. 法と人権に関して自分なりの視座をもつ。 2. 現代社会で生じている問題を「法と人権」の観点から考察できる。 3. 以上を踏まえ、牧師を目指す上で有意義な視点を得る。			
<授業の概要> 受講生の関心にあわせて文献を選び、レジュメを作成して文献購読を行うことに加え、各自が気になった新聞記事等を持ち寄り、毎回の授業でディスカッションを行う予定です。			
<履修条件> 履修条件は特にありませんが、特に1年生の皆さんに照準を合わせた授業になる予定です。			
<授業計画> 第1回：文献講読（1）人権の歴史的考察 第2回：文献講読（1）人権の理論 第3回：文献講読（1）人権の現代的課題 第4回：映画鑑賞とディスカッション 第5回：文献講読（2）正義の歴史的考察 第6回：文献講読（2）正義の理論 第7回：文献講読（2）正義の現代的課題 第8回：映画鑑賞とディスカッション 第9回：文献講読（3）自由の歴史的考察 第10回：文献講読（3）自由の理論 第11回：文献講読（3）自由の現代的課題 第12回：映画鑑賞とディスカッション 第13回：文献講読（4）平等の歴史的考察 第14回：文献講読（4）平等の理論 第15回：文献講読（4）平等の現代的課題 文献や映画は受講生の関心に応じて選びます。詳細は初回授業で受講生と相談の上、決める予定です。			
<準備学習等の指示> 毎日新聞を読む習慣をつけるようにしてください。			
<テキスト> 教科書指定はありません。授業のなかで参考文献を紹介します。			
<参考書・参考資料等> 森島豊『人権思想とキリスト教 日本の教会の使命と課題』（教文館、2016）			
<学生に対する評価（方法・基準）> 文献の報告 50% ディスカッションへの参加 50% （期末レポートを提出した場合、加点対象とします。）			

学際基礎科目・社会科学系			
法と人権 2 日本国憲法		松田 浩道	<担当形態> 単独
後期・2 単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
日本国憲法			
<授業のテーマ>			
受講生の関心にあわせて日本国憲法に関する文献を読んでいきます。映画や新聞記事なども利用しつつ、現代社会で実際に生じている問題と憲法との関連を考えます。			
<到達目標>			
1. 日本国憲法に関して自分なりの視座をもつ。 2. 現代社会で生じている問題を憲法の視点から分析できる。 3. 以上を踏まえ、牧師を目指す上で有意義な視点を得る。			
<授業の概要>			
受講生の関心にあわせて文献を選び、レジュメを作成して文献講読を行うことに加え、各自が気になった新聞記事等を持ち寄り、毎回の授業でディスカッションを行う予定です。			
<履修条件>			
履修条件は特にありませんが、主に 1 年生の皆さんを念頭に置いた授業を予定しています。			
<授業計画>			
第 1 回：文献講読（1）立憲主義の歴史的考察 第 2 回：文献講読（1）立憲主義の理論 第 3 回：文献講読（1）立憲主義の現代的課題 第 4 回：映画鑑賞とディスカッション 第 5 回：文献講読（2）平和主義の歴史的考察 第 6 回：文献講読（2）平和主義の理論 第 7 回：文献講読（2）平和主義の現代的課題 第 8 回：映画鑑賞とディスカッション 第 9 回：文献講読（3）人権の歴史的考察 第 10 回：文献講読（3）人権の理論 第 11 回：文献講読（3）人権の現代的課題 第 12 回：映画鑑賞とディスカッション 第 13 回：文献講読（4）政教分離の歴史的考察 第 14 回：文献講読（4）政教分離の理論 第 15 回：文献講読（4）政教分離の現代的課題			
文献や映画は受講生の関心に応じて選びます。詳細は受講生と相談の上、決める予定です。			
<準備学習等の指示>			
毎日新聞を読む習慣をつけるようにしてください。			
<テキスト>			
教科書指定はありません。授業のなかで参考文献を紹介します。			
<参考書・参考資料等>			
森島豊『人権思想とキリスト教 日本の教会の使命と課題』（教文館、2016）			
<学生に対する評価（方法・基準）>			
文献の報告 50% ディスカッションへの参加 50% （期末レポートを提出した場合、加点対象とします。）			

学際基礎科目・社会科学系			
ドイツの歴史と教会 a		佐藤 真一	＜担当形態＞ 単独
前期・2 単位		＜登録条件＞通年履修が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 古代末期から中世末期のドイツの発展と有機的に関連するドイツ教会史について学ぶ。			
＜到達目標＞①時代背景との関連で教会の歩みを理解する。②各時代の教会の課題と特徴について理解する。 ③歴史的考察方法を身につける。			
＜授業の概要＞古代末期のゲルマン民族の社会と宗教について触れた後、中世ドイツの国家・社会と関連づけながら教会史を考察する。			
＜履修条件＞なし。			
＜授業計画＞ 第1回 「ドイツを旅する」。今年度扱う時代のドイツの風景・画像（250 ほど）をスクリーンで見る。 第2回 「ゲルマン民族」。ゲルマン民族の社会と宗教について確認し、大移動について学ぶ。 第3回 「フランク王国の台頭」。西欧世界の形成に重要な役割を果たしたフランク族の発展を他のゲルマン諸族との対比を通じて考察する。 第4回 『『ドイツ人の使徒』ボニファティウス』。ドイツの地の伝道活動に従事し殉教した人物の足跡を辿る。 第5回 「カール大帝とヨーロッパ」。カール大帝のもとで古典古代の文化、ゲルマン民族の精神、キリスト教が融合し、ヨーロッパが形成される。カールによるキリスト教の奨励、保護について学ぶ。 第6回 「カロリング・ルネサンスとアルクイン」。カール大帝の宮廷での学芸復興について学ぶ。 第7回 「オットー大帝における『国家と教会』」。大帝のもとでの帝国教会体制を考察する。 第8回 「ドイツにおける修道制」。中世の精神生活に大きな意義を持った修道制の由来とドイツにおける展開を辿る。とくに、ドイツにおける「ベネディクト会則」の受容について学ぶ。 第9回 「叙任権闘争」。中世世界は、皇帝権と教皇権という二つの中心の協調と闘争の舞台であった。中世前半の前者の優位にたいする挑戦を意味する教皇グレゴリウス 7 世の皇帝ハインリヒ 4 世との闘いを学ぶ。 第10回 「十字軍の時代」。11 世紀末から 13 世紀後半に試みられた聖地奪回の大遠征とその性格を概観する。あわせてドイツ騎士団の成立についても学ぶ。 第11回 「ロマネスクとゴシック」。教会堂建築の歴史において 12、13 世紀のロマネスク様式とゴシック様式は輝かしい発展を遂げた。ドイツ各地の大聖堂を見ながら、その特徴を学ぶ。 第12回 「中世都市の成立と市民意識」。12 世紀いらい数多く成立する都市はゲルマン的な誓約団体思想とキリスト教的な神の平和思想に基づき、市民意識を養成した。リューベックなどに即してそれを考察する。 第13回 「中世社会における貧困」。アッシジのフランチェスコにみられるような、「キリストの貧者」や「使徒的生活」の理念がドイツの教会・修道院改革のなかでどのような展開をしていくのかを考察する。 第14回 「教皇権の盛衰と公会議制」。教皇インノケンティウス 3 世のもとで絶頂期に達した教皇制も、14 世紀以降衰退に向かい、教皇もその決定に服すべきとする公会議至上説が台頭する。その経過を学ぶ。 第15回 「中世末の教会／まとめ」。14、15 世紀の教会・修道院の墮落とそれに対する改革の動きと人文主義運動。フスの活動、民衆の敬虔について学ぶ。			
＜準備学習等の指示＞あらかじめドイツ史の概説書、例えば坂井榮八郎著『ドイツ史 10 講』（岩波新書）を読んでおくこと。毎回配布されるプリントをよく読み復習しておくこと。			
＜テキスト＞『最新世界史図説 タペストリー 十七訂版』帝国書院を各自で購入し、毎回持参すること。			
＜参考書・参考資料等＞授業の中でそのつど回覧する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞3 分の 2 の出席が前提。授業への積極的参加、レポート、作文。			

学際基礎科目・社会科学系			
ドイツの歴史と教会 b		佐藤 真一	＜担当形態＞ 単独
後期・2 単位		＜登録条件＞通年履修が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ルターの宗教改革から 20 世紀までのドイツ教会史を学ぶ。			
＜到達目標＞①近代ドイツの国家・社会、文化との関連で教会の歩みを理解する。②各時代の教会の課題と特徴について理解する。③歴史的考察方法を身につける。			
＜授業の概要＞近代ドイツ史をキリスト教とのかかわりで展望する。宗教改革の展開、三十年戦争、プロイセンの台頭、ナポレオン戦争、「自由と統一」を求める動き、工業化と社会問題、ビスマルクと「文化闘争」、ヴィルヘルム 2 世時代の「福音主義社会会議」の活動、第一次世界大戦下の「祖国党」と「自由と祖国のための国民同盟」、ナチス・ドイツと教会闘争、戦後社会とキリスト教について考察する。			
＜履修条件＞なし。			
＜授業計画＞ 第 1 回 「ルター。ヴィッテンベルクへの道」。宗教改革者ルターの生涯とその時代を展望する。 第 2 回 「ヴォルムス帝国議会のルター」。自らの立場を堅持する宣言をし帝国追放刑に処せられる経過を学ぶ。 第 3 回 「ルターと農民戦争」。ルターの改革は国民各層の支持を受けるが、農民たちも当初はルターの支持者であった。その後ミュンツァーに率いられた中部ドイツの運動は過激化する。ルターの対応を考察する。 第 4 回 「プファルツ選帝侯国と改革派」。ドイツのプロテスタンティズムはルター派が主流であるが、改革派の立場に立ったフリードリヒ 3 世の歩みと「ハイデルベルク信仰問答」の意義について学ぶ。 第 5 回 「三十年戦争」。両宗派の対立から生じた最大規模の宗派戦争の経過をたどり、その終結にあたってルター派、改革派のカトリックとの同権が認められたヴェストファーレン条約について学ぶ。 第 6 回 「大選帝侯から軍人王へ——プロイセンの台頭」。ブランデンブルク・プロイセンの興隆に貢献した君主たち。ユグノーの受け入れを進めた大選帝侯と敬虔主義に共感した軍人王の足跡を辿る。 第 7 回 「フリードリヒ大王と啓蒙専制政治」。プロイセンをヨーロッパの強国の地位に高めたフリードリヒ大王の治績（オーストリア継承戦争と七年戦争）と寛容政策について考察する。 第 8 回 「ナポレオン戦争と国民意識」。ナポレオンのドイツ支配のなかで、近代化が進められたとともに、国民意識が芽生えていった。プロイセン改革、解放戦争、ウィーン会議とウィーン体制の推移について学ぶ。 第 9 回 「ヴィヒェルンと社会問題」。ドイツの工業化の進展に伴って大都市では労働者の境遇をめぐる社会問題が大きな問題となった。こうした現状に対する教会の側からの救済事業（「内国伝道」）について学ぶ。 第 10 回 「ビスマルクと『文化闘争』」。ドイツ統一の指導者であるビスマルクは国家と教会を切り離すことに努め、国家の一層の統合のためカトリック教会との闘いを推し進めた。この闘争の経過を展望する。 第 11 回 「ヴィルヘルム 2 世時代の『新航路』と社会問題」。ビスマルクの辞任後、世界政策へ転じていった皇帝は、内政面では当初、労働者保護の政策を進めた。そうしたなかで発足した福音主義社会会議を考察する。 第 12 回 「第一次世界大戦と国粋主義」。防衛戦争としてドイツ国民の大多数が感激をもって受け止めた戦争はやがて戦争目的論争を引き起こし、国粋的な動きが顕著になっていく。その経過をたどる。 第 13 回 「ヴァイマル共和国の行方」。左右両翼からの攻撃を受け、もろくも崩壊する共和国について考察する。 第 14 回 「ナチスドイツとキリスト教」。ヒトラー独裁下のドイツ教会闘争について学ぶ。 第 15 回 「東西ドイツと統一ドイツにおけるキリスト教／まとめ」。			
＜準備学習等の指示＞あらかじめドイツ史の概説書、例えば坂井榮八郎著『ドイツ史 10 講』（岩波新書）を読んでおくこと。毎回配布されるプリントをよく読み復習しておくこと。			
＜テキスト＞『最新世界史図説 タペストリー 十七訂版』帝国書院を各自で購入し、毎回持参すること。			
＜参考書・参考資料等＞授業の中でそのつど回覧する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞3 分の 2 の出席が前提。授業への積極的参加、レポート、作文。			

学際基礎科目・自然科学系			
生命の理解とバイオエシックス a		上遠 岳彦	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞通年の登録が望ましい	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 生物学が解き明かす生命の成り立ちと、他の生命との共生			
＜到達目標＞ 1. 自己の身体の生物学的な構造と働きについて理解する。 2. 他の生物との関わりの中で生かされている存在として、生態学の視点で人間を捉えることができるようになる。			
＜授業の概要＞ 1. 科学の考え方と、細胞や遺伝子の働きなど、生命を支えるメカニズムを学ぶ。 2. 多様な生態系の働きを学び、実際の動植物の観察を通して理解を深める。 3. 履修者相互のディスカッションにより、生命の理解を深める。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回 科学とはなにか 1 仮説と検証 第2回 科学とはなにか 2 実験の計画と実施 第3回 生物と無生物 -生命をどう理解するか 第4回 体を作る細胞の働き 1 基本的な細胞の構成 第5回 体を作る細胞の働き 2 細胞の社会 第6回 細胞を観察してみる 第7回 遺伝の仕組み 1 遺伝とは何か 遺伝現象の理解 第8回 遺伝の仕組み 2 遺伝子はどのように働いているのか 第9回 遺伝の仕組みと生物の進化 第10回 バイオエシックスとは何か 第11回 バイオエシックスと私たちの関わり 第12回 身近な生物の世界-野外観察(天候等により変更の場合あり) 第13回 生物多様性と被造物の世界 1 食物連鎖 第14回 生物多様性と被造物の世界 2 共生 第15回 総括とディスカッション			
＜準備学習等の指示＞ これまでの教育課程で生物学を学んでいない人は、中学・高校教科書レベルの生物学の教科書などで事前学習をすると、理解の助けになる。			
＜テキスト＞ 授業内容に合わせて参考となる書籍を紹介する。また、適宜、印刷物を配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 適宜、書籍・文献を紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席と授業への貢献度、授業内でのクイズ、及び、最終レポートで、総合的に評価する。			

学際基礎科目・自然科学系			
生命の理解とバイオエシックス b		上遠 岳彦	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ バイオテクノロジーや環境問題の理解と、社会における生物学、バイオエシックス			
＜到達目標＞ 1. バイオテクノロジーと、その技術について理解する。 2. バイオテクノロジーの社会の中での意義と問題点を理解し、バイオエシックスの観点から再考する。 3. 自分自身が直面する問題として、科学技術の発展と環境問題を考える。			
＜授業の概要＞ 1. 遺伝子の働きなど、生物のメカニズムの知識を元に、バイオテクノロジーを理解する。 2. バイオテクノロジーや生態学の知識を元に、バイオエシックスと環境問題の理解を深める。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回 バイオテクノロジーとは、どういうものか 第2回 伝統的なバイオテクノロジー：発酵食品 第3回 遺伝子組換え技術の基礎 1 どうやって遺伝子を組み換えるのか 第4回 遺伝子組換え技術の基礎 2 遺伝子を組み換えると何が起こるのか 第5回 食卓に上る遺伝子組換え作物 第6回 発生学の基礎～受精卵からどうやって体が作られるか 第7回 クローン技術の基礎とバイオエシックスから見た問題点 第8回 ES細胞と iPS細胞 ～医療技術とバイオエシックス 第9回 生物多様性を理解する 1 ～生物多様性とは何か 第10回 生物多様性を理解する 2 ～身近な自然と外来生物問題 第11回 身近な生物の世界-野外観察(天候等により変更の場合あり) 第12回 環境破壊と生物多様性 1～プラスチックゴミとリサイクル 第13回 環境破壊と生物多様性 2～地球温暖化と生態系への影響 第14回 環境問題やバイオエシックスに関連する調査と発表 第15回 発表にもとづく総合討論			
＜準備学習等の指示＞ これまでの教育課程で生物学を学んでいない人、及び、前期の生命の理解とバイオエシックス a を履修していない人は、高校教科書レベルの生物学の教科書などで事前学習をすると、理解の助けになる。			
＜テキスト＞ 授業内容に合わせて参考となる書籍を紹介する。また、適宜、印刷物を配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 適宜、書籍・文献を紹介する			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席と授業への貢献度、授業内で発表、及び、それをまとめたレポートで、総合的に評価する。			

学際基礎科目・自然科学系			
化学入門 a		角田 誠	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞通年（a, b）の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 現代社会が抱える課題を背景にして化学の基礎を学ぶ。			
＜到達目標＞ 現代社会が直面する課題を通して、科学的なものの見方を身につけるとともに化学の基礎を理解する。			
＜授業の概要＞ 地球における様々な課題を通して、分子、共有結合、酸・塩基などについて講義する。			
＜履修条件＞ 特になし。			
＜授業計画＞ 第1回 概論 第2回 持続可能な未来のための化学 第3回 分子 第4回 化学変化 第5回 原子と分子 第6回 原子の構造 第7回 放射と物質 第8回 分子の形 第9回 分子とモル 第10回 石炭の化学 第11回 ガソリンの化学 第12回 水素結合 第13回 共有結合 第14回 酸・塩基 第15回 総論			
＜準備学習等の指示＞ 毎回、復習すること			
＜テキスト＞ 授業時に資料・プリントを配布する			
＜参考書・参考資料等＞ 改訂 実感する化学＜上巻＞ A Project of the American Chemical Society 著 エヌティーエス 2015年			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ レポート、出席状況			

学際基礎科目・自然科学系		
化学入門 b	角田 誠	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位	＜登録条件＞通年（a, b）の登録が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
＜授業のテーマ＞ 現代社会が抱える課題を背景にして化学の基礎を学ぶ。		
＜到達目標＞ 現代社会が直面する課題を通して、科学的なものの見方を身につけるとともに化学の基礎を理解する。		
＜授業の概要＞ 私たちの身の回りにおける様々な課題を通して、酸化還元、有機化学などについて講義する。		
＜履修条件＞ 特になし。		
＜授業計画＞ 第1回 概論 第2回 酸化還元 第3回 電池 第4回 プラスチックとポリマー 第5回 官能基と反応特性 第6回 有機化学 第7回 薬 第8回 分子の左と右 第9回 栄養 第10回 アミノ酸 第11回 ビタミン 第12回 遺伝子とDNA 第13回 タンパク質 第14回 遺伝子工学 第15回 総論		
＜準備学習等の指示＞ 毎回、復習すること		
＜テキスト＞ 授業時に資料・プリントを配布する		
＜参考書・参考資料等＞ 改訂 実感する化学<下巻> A Project of the American Chemical Society 著 エヌティーエス 2015年		
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ レポート、出席状況		

学際基礎科目・情報科学系			
情報基礎		竹井 潔	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 情報機器の操作		
＜授業のテーマ＞ 学生が情報社会で生きていく力として、コンピュータやネットワークの知識を理解し、ワープロソフト・表計算ソフトの基本的なスキルを習得する。			
＜到達目標＞ 学生がワープロソフト・表計算ソフト等の基本的スキルを習得し、大学及び卒業後にパソコンが活用できるスキルを習得する。			
＜授業の概要＞ 学生がパソコンの基本知識やワープロソフト・表計算ソフトのスキルを習得し、情報社会で必要となる基本的な情報リテラシーを身に着ける。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回 ガイダンス 第2回 コンピュータの歴史と構造 第3回 OS とアプリケーション 第4回 情報モラルとセキュリティ 第5回 ワープロソフトの基本操作、タイピング 第6回 ワープロソフトの活用 基本的書式設定 第7回 ワープロソフトの活用 ビジュアル要素 基本（フォントスタイル、書式等） 第8回 ワープロソフトの活用 ビジュアル要素 応用（Smart Art, 図形等） 第9回 ワープロソフトの活用 レイアウト設定、表作成 第10回 表計算ソフトの基本操作 第11回 表計算ソフトの活用 表作成 第12回 表計算ソフトの活用 表計算 第13回 表計算ソフトの活用 グラフの作成 第14回 表計算ソフトの活用 データベースの作成、データの並べ替え等 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 授業中に必要に応じて指示する。 パソコンに慣れていない人はタイピングの練習をしておくこと。			
＜テキスト＞ 授業中に指示する。			
＜参考書・参考資料等＞ 定平誠『しっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint 標準テキスト』技術評論社			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 平常点（50%）、期末課題（50%）			

神学基礎科目 A		
キリスト教通論 I	須田 拓	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 学部1年生は必修	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 神学のある教会生活について学び、神学を学ぶための土台を形成する。		
<到達目標> 教会とは何か、信仰生活でなされていることにどのような意味があるのかについて、神学的に考えることができるようになる。		
<授業の概要> 教会生活について学ぶと共に、議論することを通して、神学的に考えるとはどのようなことであるかを学ぶ。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 「新しい伝道の時代へ」（はじめに） 第3回 「教会生活の鍵」 第4回 「伝道的教会と伝道的信仰」（前半） 第5回 「伝道的教会と伝道的信仰」（後半） 第6回 「洗礼」 第7回 「聖餐」（前半） 第8回 「聖餐」（後半） 第9回 「信仰告白と信仰生活」 第10回 「信仰告白と教会形成」 第11回 「祈りの意味」 第12回 「讃美歌の意味」（前半） 第13回 「讃美歌の意味」（後半） 第14回 「献金の意味」 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> テキストの該当箇所をよく読んでおき、積極的に議論に参加すること。		
<テキスト> 近藤勝彦『教会生活の要点』（第二版、東神大パンフレット38、2010年） 学生各自で用意すること		
<参考書・参考資料等> 特にないが、授業の中で必要に応じて指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業での発表、議論への参加状況によって評価する。		

神学基礎科目 A			
キリスト教通論Ⅱ		須田 拓	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 学部1年生は必修	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ キリスト教信仰の基本的内容を確認しつつ、神学をする目的と意義とを理解する。			
＜到達目標＞ 信仰の各項目について、神学的課題を理解しつつ、説明できるようになる。			
＜授業の概要＞ 使徒信条および日本基督教団信仰告白の主要項目について、信仰内容を確認しつつ、どのような神学課題が考え得るか考察する。			
＜履修条件＞ 原則としてキリスト教通論Ⅰを履修していること。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション・啓示について 第2回 聖書について 第3回 創造について 第4回 人間について 第5回 キリストについて(1) 受肉 第6回 キリストについて(2) 十字架と救済 第7回 キリストについて(3) 復活 第8回 聖霊について 第9回 教会について 第10回 終末について 第11回 三位一体について 第12回 選びについて 第13回 義認と聖化について 第14回 聖礼典について 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 授業で取り扱う信仰の項目について、聖書の該当箇所を探してよく読んでおくこと。			
＜テキスト＞ 授業において、必要に応じて指示する。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業において、必要に応じて指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加状況およびレポートによって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標（1）記載項目中の①～③を特に重視する。			

神学基礎科目 A			
聖書通論 1 旧約通論		田中 光	＜担当形態＞ 単独
前期・2 単位		＜登録条件＞ 学部 1 年生	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 旧約聖書の基礎知識			
＜到達目標＞ 旧約聖書を実際に読みながら、それに関する基礎的な知識を身につける。			
＜授業の概要＞ 担当教員が、旧約聖書 39 巻についての総論的説明をし、適宜、実際に聖書テキストのよく知られた箇所を皆で読む。また、授業の中では、旧約聖書各巻にまつわる解釈の歴史に関する諸問題、また聖書学に関する諸問題についても最低限の説明をする。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第 1 回 オリエンテーション&イントロダクション 第 2 回 カノン（正典）としての旧約聖書 第 3 回 モーセ五書① 創世記 第 4 回 モーセ五書② 出エジプト記 第 5 回 モーセ五書③ レビ記、民数記 第 6 回 モーセ五書④+申命記的歴史著作① 申命記、ヨシュア記、士師記 第 7 回 申命記的歴史著作② サムエル記、列王記 第 8 回 歴代誌的歴史著作 歴代誌、エズラ・ネヘミヤ記 第 9 回 諸文学① ヨブ記、箴言、コヘレトの言葉 第 10 回 諸文学② 画家、詩編 第 11 回 諸文学③+預言書① ルツ記、エステル記、イザヤ書 第 12 回 預言書② エレミヤ書、哀歌 第 13 回 預言書③ エゼキエル書、ダニエル書 第 14 回 預言書④ 十二小預言書① ホセア書、ヨエル書、アモス書、オバデア書、ヨナ書、ミカ書 第 15 回 預言書⑤ 十二小預言書② ナホム書、ハバクク書、ゼファニア書、ハガイ書、ゼカリヤ書、マラキ書			
＜準備学習等の指示＞ 次回の授業までに、該当する旧約聖書の書物を自分で読むこと。			
＜テキスト＞ 聖書（聖書協会共同訳）			
＜参考書・参考資料等＞ A.E.マクグラス（本多峰子訳）『旧約新約聖書ガイド』教文館			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加度と、期末の小レポートによって評価する。レポートの課題は夏休み前に提示する。			

神学基礎科目 A			
聖書通論 2 旧約時代史		田中 光	<担当形態> 単独
後期・2 単位		<登録条件> 学部 1 年生	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 旧約聖書に反映されたイスラエルの民の歴史の探求			
<到達目標> 上記の歴史を概観的に学ぶことで、旧約聖書の背景となっている歴史の知識を身に着けること			
<授業の概要> 担当教員の作成したレジュメに基いて講義を行う。各回に担当者を定め、テキストの要約を発表して頂く。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第 1 回 オリエンテーション&イントロダクション 第 2 回 聖書時代以前の古代オリエン特世界とパレスチナ地方の地理 第 3 回 カナン定着以前の時代：族長時代 第 4 回 出エジプト 第 5 回 カナン定着 第 6 回 統一王国の成立と分裂 第 7 回 北王国の歴史：イエフ王朝まで 第 8 回 北王国の滅亡と南ユダ王国の歴史① 第 9 回 南ユダ王国の歴史② 第 1 0 回 バビロン捕囚とペルシャ時代① 第 1 1 回 バビロン捕囚とペルシャ時代②：預言者から見た捕囚 第 1 2 回 ヘレニズム時代 第 1 3 回 ローマ時代 第 1 4 回 まとめ＋中近東文化センター見学（予定） 第 1 5 回 知識の確認 定期試験			
<準備学習等の指示> 学生はテキスト（以下参照）を予め読んだ上で授業に臨むこと。それと共に、各回に担当者を決め、テキストの内容の要約を発表して頂く。			
<テキスト> 樋口進『よくわかる旧約聖書の歴史』教団出版局			
<参考書・参考資料等> マルティン・メツガー（山我哲雄訳）『古代イスラエル史』新地書房、P.K.マッカーター・ジュニア他（池田裕、有馬七郎訳）『最新・古代イスラエル史』ミルトス。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業のための準備の度合い、各回の発表、定期試験によって評価を行う。			

神学基礎科目 A			
聖書通論 3 新約通論・歴史		焼山 満里子	<担当形態> 単独
後期・2 単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 新約聖書を通読し、各文書成立の背景となる時代史を理解する。			
<到達目標> 新約聖書 27 文書の特徴とそれぞれの文書成立の時代背景を理解する。			
<授業の概要> 新約聖書 27 文書の背景、テーマ、研究史を概観し、新約聖書への理解を深める。			
<履修条件> なし。			
<授業計画> 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 テキスト 1－20 頁 およびマルコによる福音書 第 3 回 テキスト 20－34 頁 およびマタイによる福音書 第 4 回 テキスト 35－47 頁 およびルカによる福音書 第 5 回 テキスト 49－60 頁 およびヨハネによる福音書 第 6 回 テキスト 61－74 頁 テサロニケの信徒への手紙一、二 第 7 回 テキスト 75－108 頁 コリントの信徒への手紙一 第 8 回 テキスト 108－129 頁 ガラテヤの信徒への手紙 第 9 回 テキスト 130－143 頁 ローマの信徒への手紙 第 10 回 テキスト 144－151 頁 コロサイ、エフェソの信徒への手紙 第 11 回 テキスト 152－169 頁 ヘブライ人への手紙 第 12 回 テキスト 184－198 頁 テモテの手紙一、二、テトスの手紙 第 13 回 テキスト 199－220 頁 使徒言行録 第 14 回 テキスト 221－232 頁 ヨハネ黙示録 第 15 回 総括 期末試験			
<準備学習等の指示> 毎回の講読箇所を予習してから授業に出席してください。			
<テキスト> 佐藤研『聖書時代史 新約篇』岩波文庫、2003 年。			
<参考書・参考資料等> 適宜指示します。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の授業参加と期末試験。			

神学基礎科目 B			
神学通論		神代 真砂実	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 学部2年生と3年次編入生は必修	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 神学とはどのような学問であるか、どのようになされてきたのか、どのような思考を求められているのかを学ぶ。			
＜到達目標＞ ①神学と教会との関係、②神学の歴史、③神学の思考のかたちをそれぞれ理解することを通して、伝道者として神学を学ぶ姿勢を身に着ける。			
＜授業の概要＞ テーマに掲げた内容について、さらには、神学の学問領域全体の概観を講義していく。			
＜履修条件＞ 学部2年生以上であること。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 序——この授業の目的と課題 第1部 キリスト者と神学者 I. 霊的な務め・召命 第2回 II. 神学と教会奉仕の準備／III. 神学と信仰の従順 第3回 第2部 キリスト教神学 I. 「神学」という言葉の意味／II. キリスト教神学の従来の意味 第4回 III. 啓蒙主義以降の神学的思考の変化 第5回 IV. 近代神学（1）——シュライエルマッハーの神学の概要 第6回 IV. 近代神学（2）——シュライエルマッハーの神学への評価 第7回 V. 近代神学の歩み 第8回 VI. 新たな展開（1）——「近代神学」の「失敗」 第9回 VI. 新たな展開（2）——カール・バルトおよび「新しい神学」 第10回 VI. 新たな展開（3）——神の言葉の神学 第11回 VII. 神学と教会 第12回 VIII. 神学の「学問的」性格（1）——「学問的神学」とは 第13回 VIII. 神学の「学問的」性格（2）——神学と教会 第14回 IX. 神学諸科の分類 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ このクラスでは事前準備よりも復習が重要になる。また、耳慣れない言葉・概念・論理に出会うことになるので、授業中に積極的に質問すること。			
＜テキスト＞ 特になし。			
＜参考書・参考資料等＞ 神代・川島・西原・深井・森本、『神学とキリスト教学』（キリスト新聞社、2009年）；フロマートカ、『神学入門』、平野清美訳（新教出版社、2012年）。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 学期中の小課題および期末のレポートの総合による。評価にあたっては、共通評価指標の①～④の内容を重視する。			

現代語科目必修・外国語科目必修		
英語 I A a	田中 光	<担当形態> 単独
前期・1単位		<登録条件>
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 英文法		
<到達目標> 基礎的英語力の向上		
<授業の概要> 基礎的な文法の知識を習得するための学びを、テキストを用いて行う。各授業の最初では、簡単なウォーミング・アップ（英語の聖書を読む、神学によく用いられる英単語のミニ・クイズなど）を行う。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション、to 不定詞 第2回 to なし不定詞 第3回 分詞 第4回 動名詞 第5回 動名詞と不定詞 第6回 時制 第7回 未来時の表現 第8回 進行形 第9回 完了形 第10回 態 第11回 仮定法（基礎） 第12回 仮定法（条件文その他） 第13回 比較 第14回 否定 第15回 名詞		
<準備学習等の指示> 復習（練習問題）をしっかりとやること		
<テキスト> Toshinori Tomishige, <i>A Communicative Grammar of English</i> (Nan'un-do).		
<参考書・参考資料等> 『徹底例解 ロイヤル英文法』（旺文社）など、少し厚めの英文法解説書と併せてテキストと取り組むと、より理解が深まる。また、英語の聖書（できれば New International Version）があれば望ましい。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の練習問題の達成度、授業への参加度や貢献度によって評価する。		

現代語科目必修・外国語科目必修		
英語 I A b	田中 光	<担当形態> 単独
後期・1単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 英文法		
<到達目標> 基礎的英語力の向上		
<授業の概要> 基礎的な文法の知識を習得するための学びを、テキストを用いて行う。各授業の最初では、簡単なウォーミング・アップ（英語の聖書を読むなど）を行う。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 代名詞（基礎） 第2回 代名詞（形式主語、慣用表現その他） 第3回 形容詞 第4回 冠詞 第5回 数量詞 第6回 副詞 第7回 動詞 第8回 法助動詞（will, shall, would, should） 第9回 法助動詞（can, may, must その他） 第10回 場所の前置詞 第11回 時間の前置詞 第12回 その他の前置詞 第13回 接続詞 第14回 関係代名詞 第15回 関係副詞		
<準備学習等の指示> 復習（練習問題）をしっかりとやること		
<テキスト> Toshinori Tomishige, <i>A Communicative Grammar of English</i> (Nan'un-do).		
<参考書・参考資料等> 『徹底例解 ロイヤル英文法』（旺文社）など、少し厚めの英文法解説書と併せてテキストと取り組むと、より理解が深まる。また、英語の聖書（できれば New International Version）があれば望ましい。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の練習問題の達成度、授業への参加度や貢献度によって評価する。		

現代語科目必修・外国語科目必修			
英語 I B a		須田 拓	<担当形態> 単独
前期・1単位		<登録条件> 特になし	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 初歩的な神学的文献を読むことができるように、英語読解力を養成する。			
<到達目標> 英語の神学用語に慣れ、初歩的な神学的文献が読めるようになること。			
<授業の概要> 英語でなされた説教を読むことで、基本的な神学用語に慣れると共に、英語の読解力を養成する。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト講読 The Creed(1) Creation pp.3-4 第3回 テキスト講読 The Creed(1) Creation pp.4-5 第4回 テキスト講読 The Creed(1) Creation pp.6-7 第5回 テキスト講読 The Creed(1) Creation pp.8-9 第6回 テキスト講読 Heaven and the Saints pp.49-50 第7回 テキスト講読 Heaven and the Saints pp.51-52 第8回 テキスト講読 Heaven and the Saints pp.53-54 第9回 テキスト講読 Judgement pp.159-160 第10回 テキスト講読 Judgement pp.161-162 第11回 テキスト講読 Judgement pp.163-164 第12回 テキスト講読 The Trinity and Worship pp.127-128 第13回 テキスト講読 The Trinity and Worship pp.129-130 第14回 テキスト講読 The Trinity and Worship pp.131-132 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> テキストの該当箇所を、わからない単語等を辞書で調べつつ、よく読んでおくこと。			
<テキスト> Colin E. Gunton, <i>The Theologian as Preacher</i> , London and New York: T&T Clark, 2007 テキストは担当者が用意する。			
<参考書・参考資料等> 授業において、必要に応じて指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況及び小テストで評価する。			

現代語科目必修・外国語科目必修			
英語 I B b		須田 拓	<担当形態> 単独
後期・1単位		<登録条件> 特になし	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 初歩的な神学的文献を読むことができるように、英語読解力を養成する。			
<到達目標> 英語の神学用語に慣れ、初歩的な神学的文献を読むことができるようになる。			
<授業の概要> 英語の神学的文章に触れることで、神学書を読むための英語読解力を養成する。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト講読 pp.1-2 第3回 テキスト講読 pp.2-3 第4回 テキスト講読 pp.4-5 第5回 テキスト講読 pp.5-6 第6回 テキスト講読 pp.7-8 第7回 テキスト講読 pp.9-10 第8回 中間総括 第9回 テキスト講読 pp.11-12 第10回 テキスト講読 pp.13-14 第11回 テキスト講読 pp.15-16 第12回 テキスト講読 pp.17-18 第13回 テキスト講読 pp.19-20 第14回 テキスト講読 pp.21-22 第15回 テキスト講読 pp.23-25			
<準備学習等の指示> テキストの該当箇所を、わからない単語等を辞書で調べつつ、よく読んでおくこと。			
<テキスト> Alistair McGrath, <i>Faith and Creeds</i> (Christian Belief for Everyone), London: SPCK, 2013 テキストは担当者が用意する。			
<参考書・参考資料等> 授業において、必要に応じて指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況及び小テストで評価する。			

現代語科目必修・外国語科目必修			
ドイツ語 I A a (1,2) (初級)		長山 道	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 学部1年生は必修。ドイツ語 IAb と通年で登録することが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> ドイツ語の初級文法を身につける。			
<到達目標> 初歩的なテキストを、辞書と文法書を参照しながら読めるようになる。			
<授業の概要> ドイツ語の文法を学ぶ。練習問題を通して読解力を養成する。			
<履修条件> ドイツ語未習であることが望ましい。			
<授業計画> 1 オリエンテーション、アルファベット、発音 2 あいさつ表現、季節・月・曜日、国名 3 動詞の現在人称変化(1) 4 定動詞の位置と文の構造 5 名詞の性と格変化、冠詞、名詞の複数形 6 定冠詞類と不定冠詞類、否定、男性弱変化名詞 7 動詞の現在人称変化(2)、不定代名詞、数詞 8 人称代名詞、疑問代名詞 9 前置詞の格支配 10 話法の助動詞 11 未来形 12 形容詞の格変化 13 動詞の3基本形 14 過去人称変化 15 完了形 16 過去完了形、未来完了形、話法の助動詞の完了形 17 分離動詞 18 命令形 19 再帰代名詞 20 再帰動詞 21 接続詞 22 副文 23 zu 不定詞句、非人称動詞 24 形容詞の比較 25 指示代名詞、関係代名詞 26 受動文、分詞 27 接続法第1式 28 接続法第2式 29 接続法の用法 30 総括 定期試験			
<準備学習等の指示> 課された練習問題を必ず解いてくること。初回に指示する独和辞典と単語カードを、第2回以降持参すること。			
<テキスト> Ookawa Isamu / Tsuneki Kentarou / Ishizawa Masato, <i>Deutsche Grammatik für das Leseverständnis</i> , Ikubundo, 2013. 学生各自で購入すること。			
<参考書・参考資料等> 中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『改訂版必携ドイツ文法総まとめ』白水社、 ¹⁵ 2013年。『クラウン独和辞典第5版』三省堂、2014年。			
<学生に対する評価(方法・基準)> 授業への参加度と学期末の筆記試験によって評価する。			

現代語科目必修・外国語科目必修			
ドイツ語 I A b (1, 2) (初級)		長山 道	<担当形態> 単独
後期・2 単位		<登録条件> 学部 1 年生は必修。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 平易なテキストを読みながら、初級文法を定着させる。			
<到達目標> 神学用語に慣れ、初歩的な神学書が読めるようになる。			
<授業の概要> テキストを和訳する。初級文法を復習する。			
<履修条件> 初級文法を一とおり終えていること。			
<授業計画> 1 オリエンテーション 2 S. 1 3 S. 2 4 S. 3 5 S. 4 6 S. 5 7 S. 6 8 S. 7 9 S. 8 10 S. 9 11 Reformationstag 12 S. 10 13 S. 11 14 S. 12 15 S. 13 16 S. 14 17 S. 15 18 S. 16 19 S. 17 20 S. 18 21 S. 19 22 Advent, Weihnachten, Epiphanias 23 ドイツ語すごろく 24 S. 20 25 S. 21 26 S. 22 27 S. 23 28 S. 24 29 S. 25 30 総括 定期試験			
<準備学習等の指示> 必ず予習してくること。独和辞典、単語カードを持参すること。			
<テキスト> Heinrich Schlier Über die christliche Existenz, 同学社、1975 年。学生各自で入手すること。			
<参考書・参考資料等> 授業内で必要に応じて指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度と学期末の筆記試験によって評価する。			

現代語科目必修・外国語科目必修			
ドイツ語 I B a（コミュニケーション）		福嶋 揚	＜担当形態＞ 単独
前期・1単位		＜登録条件＞ 通年(a, b)の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目 ＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 外国語コミュニケーション		
＜授業のテーマ＞ 神学生にとって有意義な、ドイツ語による「キリスト教的コミュニケーション」を学ぶ。			
＜到達目標＞ プロテスタンティズムの伝統に基づき、現代も用いられる生きた日常ドイツ語の表現を用いる力を習得する。			
＜授業の概要＞ 様々なテキスト、音声教材を用いて、重要なドイツ語表現を習得する。また平易なドイツ語テキストを併せて読むことにしたい。			
＜履修条件＞ 学部 2 年に履修。			
＜授業計画＞ 第 1 回 主の祈り、ニカイア信条、使徒信条 第 2 回 十戒その他の重要な戒め 第 3 回 詩編に基づく祈り 第 4 回 聖書に基づく賛美の祈り 第 5 回 子供と共に祈る 第 6 回 日常の中の祈り 第 7 回 日曜日から土曜日までの日ごとの祈り 第 8 回 その他の様々な場面での祈り 第 9 回 ローゼンゲン(日々の聖句集)の使い方 第 10 回 カテキズム(ルター小教理問答) 第 11 回 カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、序論と第一部) 第 12 回 カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第二部前半) 第 13 回 カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第二部後半) 第 14 回 カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第三部前半) 第 15 回 カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第三部後半) 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。			
＜テキスト＞ ドイツ語訳聖書、ドイツ語のローゼンゲン、ドイツ語賛美歌集等。必要に応じてコピーを配布。			
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じて配布する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 十分な出席、積極的な授業参加、期末試験によって評価する。			

現代語科目必修・外国語科目必修			
ドイツ語 I B b（コミュニケーション）		福嶋 揚	＜担当形態＞ 単独
後期・１単位		＜登録条件＞ 通年(a, b)の登録が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 外国語コミュニケーション		
＜授業のテーマ＞ 前期に引き続いて、現代も用いられる生きたドイツ語のキリスト教的な表現を出来るだけ幅広く学ぶ。			
＜到達目標＞ プロテスタンティズムの伝統に基づき、現代も用いられる生きた日常ドイツ語の表現を用いる力を習得する。			
＜授業の概要＞ 前期に引き続いて、様々なテキストや音声教材を用いて、重要なドイツ語表現を習得する。			
＜履修条件＞ 学部２年に履修。			
＜授業計画＞ 第１回 礼拝の言葉 第２回 アンダハトの言葉(家庭で) 第３回 アンダハトの言葉(教会暦にあわせて) 第４回 賛美歌のテキストに学ぶ(アドベント) 第５回 賛美歌のテキストに学ぶ(クリスマス) 第６回 賛美歌のテキストに学ぶ(受難節) 第７回 賛美歌のテキストに学ぶ(復活祭) 第８回 賛美歌のテキストに学ぶ(昇天祭) 第９回 賛美歌のテキストに学ぶ(ペンテコステ) 第１０回 賛美歌のテキストに学ぶ(その他の様々な季節、テーマ) 第１１回 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 Feiert Jesus から) 第１２回 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 In Love with Jesus から) 第１３回 ラジオ講演を聞く(カール・バルト) 第１４回 礼拝説教を聞く(カール・バルト) 第１５回 礼拝説教を聞く(現代の説教例から) 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。			
＜テキスト＞ 必要に応じて配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じて配布する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 十分な出席、積極的な参加、および期末試験によって評価する。			

現代語科目選択			
英語基礎 a		越智 さやか	<担当形態> 単独
前期・1単位		<登録条件>課された者が通年で履修する	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ>英文法・英単語			
<到達目標>中学卒業程度の英文法・英単語の知識を習得する。			
<授業の概要>中学卒業程度の英語の知識を習得する。毎回、小テスト(文法の復習と単語)を行う。文法テキストでの学びを中心に、歌、エッセイ、スピーチも行う。			
<履修条件>特になし			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション、品詞、人称代名詞 第2回 肯定文・否定文・疑問文 第3回 文型 第4回 時制 第5回 完了形 第6回 助動詞 第7回 受動態 第8回 不定詞 第9回 動名詞 第10回 分詞 第11回 関係代名詞 第12回 関係副詞 第13回 比較 第14回 接続詞 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示>毎回の復習を行い、単語を覚えて小テストに備えること。			
<テキスト>金谷憲 総合監修『総合英語 One』アルク 木村達哉『夢をかなえる英単語新ユメタン⑩』			
<参考書・参考資料等>授業の中で教員が指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>小テスト、エッセイ、スピーチ、まとめによる。			

現代語科目選択			
英語基礎 b		越智 さやか	<担当形態> 単独
後期・1単位		<登録条件>課された者が通年で履修する	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ>英文法・英単語			
<到達目標>高校卒業程度の英単語・文法の知識を習得する。			
<授業の概要> 『英語基礎 a』では扱わなかった内容を扱い、高校卒業程度の英語の知識を習得する。毎回、小テスト(文法の復習と単語)を行う。文法テキストでの学びを中心に、歌、暗唱、暗写も行う。			
<履修条件>特になし			
<授業計画> 第1回 文の種類・文型 第2回 時制 第3回 完了形 第4回 助動詞 第5回 受動態 第6回 不定詞 第7回 動名詞 第8回 分詞 第9回 関係代名詞 第10回 関係副詞 第11回 比較 第12回 仮定法 第13回 疑問文 第14回 復習 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示>毎回の復習を行い、単語を覚えて小テストに備えること。			
<テキスト>金谷憲 総合監修『総合英語 One』 木村達哉『夢をかなえる英単語新ユメタン①』			
<参考書・参考資料等>授業の中で教員が指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>小テスト、暗唱、暗写、まとめによる。			

現代語科目選択			
日本語基礎 a		後藤 倫子	<担当形態> 単独
前期・1単位		<登録条件> 課された者が通年で履修する	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 時事問題や専門分野を中心に読解力を、レポートの書き方を中心に書く力の基礎を強化する			
<到達目標> まとまりのある文章を読み、自分の言葉でまとめることができるようになる。 話し言葉と書き言葉の違いを把握し、使い分けることができるようになる。			
<授業の概要> 授業時間の前半は、現代日本における時事問題や専門分野に関する記事を毎回一つ取り上げ読む。その内容を理解し、自分の言葉でまとめる作業を行う。後半は、レポートを中心としたアカデミック・ライティングのための語彙力を意識し、話し言葉と書き言葉を自在に使い分けられる力を養う。			
<履修条件> 日本語を母語としない学生対象			
<授業計画> 第1回 単語を言い換える 第1課 書き言葉 第2回 単語を言い換える 第2課 和語と漢語 第3回 単語を言い換える 第3課 名詞化 第4回 単語を言い換える 第4課 ジャンルによる使い分け 第5回 単語を言い換える 総合問題 第6回 意味を読み取って言い換える 第1課 長い文／複数の文 第7回 意味を読み取って言い換える 第2課 上位概念 第8回 意味を読み取って言い換える 第3課 簡潔な表現 第9回 意味を読み取って言い換える 第4課 含意／解釈 第10回 意味を読み取って言い換える 総合問題 第11回 目的に応じた形式で書く 実践問題 1 文献を引用する 第12回 目的に応じた形式で書く 実践問題 2 発表スライドを作成する 第13回 目的に応じた形式で書く 実践問題 3 インタビューの内容をレポートに書く 第14回 実践 1 レポート作成 第15回 実践 2 レポート発表 まとめ			
<準備学習等の指示> 休まないこと。毎回の積み重ねが日本語力強化につながる。復習をすること。			
<テキスト> 『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク (プリントで配付)			
<参考書・参考資料等> 各学生に必要な参考書・参考資料等は授業の中で教員が指示する。			
<学生に対する評価(方法・基準)> 学期中の課題とレポート 70%、授業参加度 30% 欠席が 1/3 を超えた者は成績がつかない。			

現代語科目選択			
日本語基礎 b		後藤 倫子	<担当形態> 単独
後期・1単位		<登録条件> 課された者が通年で履修する	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> さまざまなジャンルのニュースから読解力を養い、レポートの書き方を中心に書く力を強化する			
<到達目標> まとまりのある文章を読み、既存の知識と照らし合わせ、自分の考えをまとめることができるようになる。 レポートや論文にふさわしい文法・文型、文字・表記、語彙、文章を使い分けることができるようになる。			
<授業の概要> 授業時間の前半は、いろいろなジャンルの記事を毎回一つ取り上げ読む。その内容を理解し、自分の言葉でまとめる作業を行う。後半は、専門分野のレポートや論文作成に役立つ知識の強化を、添削作業を通じて行う。学期後半には実際にレポートを作成する。			
<履修条件> 日本語を母語としない学生対象			
<授業計画> 第1回 (文法) 自動詞・他動詞・受身 第2回 (文型) 文末表現の調整 第3回 (語彙) 辞書の危険性 第4回 (意味) 専門用語の選び方 第5回 (文章) 文の長さを読みやすさ 第6回 (文章) 指示詞による文の接続 第7回 レポートの基本的な書き方 意見と事実 第8回 レポートの基本的な書き方 複雑な内容の整理 第9回 立場のある文章の書き方 第10回 先生宛のEメールの書き方 第11回 思考力を育てる① 詩を描く 第12回 思考力を育てる② 自分の見方を知る 第13回 思考力を育てる③ 発表 第14回 実践1 レポート作成 第15回 実践2 レポート発表 まとめ			
<準備学習等の指示> 休まないこと。毎回の積み重ねが日本語力強化につながる。復習をすること。			
<テキスト> 『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク (プリントで配付)			
<参考書・参考資料等> 各学生に必要な参考書・参考資料等は授業の中で教員が指示する。			
<学生に対する評価(方法・基準)> 学期中の課題とレポート 70%、授業参加度 30% 欠席が 1/3 を超えた者は成績がつかない。			

現代語科目選択・外国語科目選択		
英語Ⅱ a	高砂 民宣	<担当形態> 単独
前期・1単位	<登録条件> 学期ごとの登録可	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> ヨハネ福音書に関して英文で記された注解書を読み、内容について考察する。		
<到達目標> ①英文の注解書に慣れ親しむ。②英文の読解能力を高める。③神学用語や慣用表現を習得する。		
<授業の概要> 英文の注解書を読みつつ、神学用語等についても解説をし、福音書記者の意図について考察する。		
<履修条件> おもに学部2年生が対象。		
<授業計画> 第1回 Unit 10: John 20-21 The Resurrection Appearances of Jesus (p.116)より 第2回 The Empty Tomb (20:1-10) pp.117-118 第3回 " 第4回 Mary in the Garden (20:11-18) pp.118-119 第5回 " 第6回 The Closed Room Appearances (20:19-29) pp.120-122 第7回 " 第8回 The First Ending (20:30-31) p.122 第9回 The Epilogue (Chapter 21) pp.122-123 第10回 The Fish Miracle (21:1-14) pp.123-125 第11回 " 第12回 Jesus and Simon Peter (21:15-19) pp.125-126 第13回 Simon Peter and the Beloved Disciple (21:20-23) pp.126-127 第14回 The Second Ending (21:24-25) pp.127-128 第15回 Questions for Reflection p.128 定期試験		
<準備学習等の指示> 毎回該当する箇所を予習して出席すること。		
<テキスト> Matson, Mark A., <i>John</i>, Westminster John Knox Press, Louisville, Kentucky, 2002. (担当者が用意する)		
<参考書・参考資料等> 授業の中で教員が指示する。		
<学生に対する評価(方法・基準)> 出席および授業参加状況、期末試験など、総合的に評価する。 ※出席が2／3に満たない者は、評価の対象としない。		

現代語科目選択・外国語科目選択		
英語Ⅱb	高砂 民宣	＜担当形態＞ 単独
後期・1単位	＜登録条件＞ 学期ごとの登録可	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
＜授業のテーマ＞ ヨハネ福音書に関して英文で記された注解書を読み、内容について考察する。		
＜到達目標＞ ①英文の注解書に慣れ親しむ。②英文の読解能力を高める。③神学用語や慣用表現を習得する。		
＜授業の概要＞ 英文の注解書を読みつつ、神学用語等についても解説をし、福音書記者の意図について考察する。		
＜履修条件＞ おもに学部2年生が対象。		
＜授業計画＞ 第1回 Chapter 1: Introduction to the Johannine Literature (p.13)より 第2回 What is John? – John as Literature p.14 第3回 What is John? – John as History p.15 第4回 What is John? – John as Theology pp.16-17 第5回 " 第6回 What makes John unique? – John and the Synoptics: a closer look p.18 第7回 Similarities between John and the Synoptics p.18 第8回 Differences between John and the Synoptics – 1. Journeys p.19 第9回 Differences between John and the Synoptics – 2. Chronology p.20 第10回 Differences between John and the Synoptics – 3. Signs p.21 第11回 Differences between John and the Synoptics – 4. Teachings p.22 第12回 Differences between John and the Synoptics – 5. Christology pp.23-24 第13回 " 第14回 Interpreting the relationship between John and the Synoptics pp.25-26 第15回 " 定期試験		
＜準備学習等の指示＞ 毎回該当する箇所を予習して出席すること。		
＜テキスト＞ Culpepper, R. Alan., <i>The Gospel and Letters of John</i> , Abingdon Press, Nashville, Tennessee, 1998. （担当者が用意する）		
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で教員が指示する。		
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席および授業参加状況、期末試験など、総合的に評価する。 ※出席が2／3に満たない者は、評価の対象としない。		

現代語科目選択・外国語科目選択			
英語実践Ⅰ		ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独
前期・１単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目 ＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 外国語コミュニケーション		
＜授業のテーマ＞ 日常的に英語を使うこと。			
＜到達目標＞ 英語を実際に使うようになることによって、より深く理解できるようになり、英語で学ぶこともよりできるようになる。			
＜授業の概要＞ 英語を実際に使うことによって簡単な会話ができるようになり、そして、英語で書かれた文献をより容易に用いることができること。ビデオを使用することもある。			
＜履修条件＞ 特にない			
＜授業計画＞ 英語による比較的平易な英会話教材を用いることで、英語の話す力と読解力を養う。 第 1 回 Orientation 第 2 回 Harmony 第 3 回 Modesty 第 4 回 Reserve 第 5 回 Place, Situation 第 6 回 Lobbying 第 7 回 Form 第 8 回 Discipline 第 9 回 Craft 第 10 回 Way, Road 第 11 回 Reason 第 12 回 The Way of the Warrior 第 13 回 Training 第 14 回 Seeking the truth 第 15 回 Final Evaluation			
＜準備学習等の指示＞ テレビ・ラジオやパソコンで英会話を聞く。			
＜テキスト＞ 必要に応じて教室で配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 英和辞書			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席、ディスカッションの参加、ミニ・テスト、最終評価 出席が 2／3 に満たない者は評価の対象としない。			

現代語科目選択・外国語科目選択			
英語実践Ⅱ		ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独
後期・１単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
外国語コミュニケーション			
＜授業のテーマ＞ 日常的に英語を使うこと。			
＜到達目標＞ 英語を実際に使うようになることによって、より深く理解できるようになり、英語で学ぶこともよりできるようになる。			
＜授業の概要＞ 英語を実際に使うことによって簡単な会話ができるようになり、そして、英語で書かれた文献をより容易に用いることができること。ビデオを使用することもある。			
＜履修条件＞ 特にない			
＜授業計画＞ 英語による比較的平易な英会話教材を用いることで、英語の話す力と読解力を養う。			
第1回 Orientation			
第2回 Feelings			
第3回 Personal Feelings			
第4回 Obligation, Duty			
第5回 Social Debt			
第6回 Inside and Outside, Social Circle			
第7回 True Feelings and Facade			
第8回 Loyalty			
第9回 Hierarchy			
第10回 Service			
第11回 Filial Piety			
第12回 Barriers			
第13回 The Gods			
第14回 Purification			
第15回 Final Evaluation			
＜準備学習等の指示＞ テレビやパソコンで英会話を聞く。			
＜テキスト＞ 必要に応じて教室で配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 英和辞書			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席、ディスカッションの参加、ミニ・テスト、最終評価 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。			

現代語科目選択・外国語科目選択			
ドイツ語Ⅱ a		福嶋 揚	＜担当形態＞ 単独
前期・1単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ ドイツ語神学書の講読			
＜到達目標＞ 現代ドイツの代表的な福音主義神学者の一人であるエバーハルト・ユンゲルの著書『キリスト教信仰の中心としての、神なき者の義認についての福音』を原書で読む。ユンゲルは本書において、二十世紀のエキュメニズムの動向をふまえつつ、宗教改革の伝統である信仰義認論の本質を解説する。西洋思想の「正義」論の系譜の中で、キリスト教的な「正義」論としての義認論が持つ独自の現代的意義を明らかにした、必読の書である。 前期の前半においては、信仰義認論をめぐる聖書その他の基本的なテキストをドイツ語で読み、準備をととのえる。それからユンゲルの著書をドイツ語で丁寧に読み進めていきたい。			
＜授業の概要＞ 初級文法を習得していること。			
＜履修条件＞ 初級文法を習得していること。			
＜授業計画＞ 第1回 序論 ユンゲルの著書への入門など 第2回 信仰義認論をめぐる、ドイツ語聖書テキスト(1) 旧約聖書より 第3回 信仰義認論をめぐる、ドイツ語聖書テキスト(2) 新約聖書より 第4回 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(1) ルター 第5回 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(2) メランヒトン 第6回 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(2) 和協信条 第7回 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(3) トリエント公会議の教令 第8回 信仰義認論をめぐる、現代のテキスト(1) カール・バルト 第9回 信仰義認論をめぐる、現代のテキスト(2) ハンス・キュンク 第10回 Jüngel, 1-4. (頁数。以下同様。) 第11回 4-11. 第12回 43-48. 第13回 48-52. 第14回 52-58. 第15回 58-65. 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。			
＜テキスト＞ Eberhard Jüngel, Das Evangelium von der Rechtfertigung des Gottlosen als Zentrum des christlichen Glaubens, Tübingen ³ 1999. その他のテキストは必要に応じて配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 特に指定しないが、必要に応じて参考資料を配布する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 十分な出席、毎回の十分な予習復習を前提として、筆記試験によって評価する。			

現代語科目選択・外国語科目選択			
ドイツ語Ⅱ b		福嶋 揚	＜担当形態＞ 単独
後期・1単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ ドイツ語神学書の講読			
＜到達目標＞ 神学的な諸概念と思考法を習得する。			
＜授業の概要＞ ドイツ語Ⅱa(前期)を参照。前期に続いて、現代ドイツの代表的な福音主義神学者の一人であるエバーハルト・ユンゲルの著書『キリスト教信仰の中心としての、神なき者の義認についての福音』を原書で読み進める。			
＜履修条件＞ 初級文法を習得していること。			
＜授業計画＞ 第1回 Jüngel, 65-74.(頁数。以下同様。) 第2回 75-86. 第3回 86-97. 第4回 97-106. 第5回 106-114. 第6回 114-125. 第7回 126-143. 第8回 143-155. 第9回 156-169. 第10回 169-180. 第11回 180-190. 第12回 191-201. 第13回 201-209. 第14回 210-220. 第15回 221-234. 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。			
＜テキスト＞ Eberhard Jüngel, Das Evangelium von der Rechtfertigung des Gottlosen als Zentrum des christlichen Glaubens, Tübingen ³ 1999. その他の資料は必要に応じて配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 特に指定しないが、必要に応じて参考資料を配布する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 十分な出席、毎回の十分な予習復習を前提として、筆記試験によって評価する。			

保健体育科目			
体育Ⅰ		岡田 光弘	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 体育		
<授業のテーマ> 生涯にわたって、自らの日常生活における諸活動を有意義に過ごすため、各自の体力維持・向上の運動方法と、生活を豊かにする基礎的な知識、態度、技術を身につけるとともに、卒業後の活動に役立てることのできる指導方法も学びます。			
<到達目標> 1. 体を動かす楽しさと喜びを再認識できる、各自の体力に合わせた健康体力作りの理論と実践を習得します。 2. 宣教・教会活動に役立つレクリエーション活動の理論と各種活動、および指導法の習得を目指します。			
<授業の概要> 主に身体活動を中心とした実技を行います。 各自の体力に合わせたストレッチ体操、他者と楽しむニュースポーツなどのレクリエーション活動を実践し、合わせて具体的な指導方法について学びます。			
<履修条件> 各自が参加できるレベル、方法で行います。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション（クラスの進め方、体育の考え方、レクリエーションの考え方） 第2回 準備体操、ストレッチ、ウォーキングの理論と実際1 第3回 準備体操、ストレッチ、ウォーキングの理論と実際2（同上） 第4回 ソフトボール1 ＊東神大運動会に向けて（用具の知識と安全、キャッチボール・バッティングの基本） 第5回 ソフトボール2（試合へ向けての基礎技術／キャッチ&スロー、ピッチング、連係プレー） 第6回 ソフトボール3（基本ルールの理解、模擬試合） 第7回 ソフトボール4（ノック練習、試合） 第8回 ニュースポーツ1（フライングディスク／投げ方の基本、取り方の基本、ディスクゴルフの楽しみ方） 第9回 ニュースポーツ2（フライングディスク／ルール・安全管理の理解） 第10回 ニュースポーツ3（フライングディスク／ディスクゴルフ） 第11回 バドミントン1（打ち方） 第12回 バドミントン2（ルール・安全管理の理解） 第13回 バドミントン3（試合） 第14回 バドミントン3（指導法） 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 1. 運動に適した服装に着替えること。 2. それぞれの種目に適した靴を用意すること。 3. 体調に十分留意すること。			
<テキスト> 井上俊・菊幸一（編）（新版）『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房（購入の必要はありません。）			
<参考書・参考資料等> 橋本純一（編）『現代メディアスポーツ論』世界思想社（購入の必要はありません。） その他、授業でお伝えします。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 技能：60％ 時間ごとの観察により評価します。 知識：20％ 実際にゲームを進行していく知識を評価します。 態度：20％ 運動に適した服装などの用意ができているか、授業に積極的に参加しているかを評価します。出席が2/3に満たない場合、成績評価の対象にしません。			

保健体育科目			
体育Ⅱ		岡田 光弘	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 体育		
<授業のテーマ> 生涯にわたって、自らの日常生活における諸活動を有意義に過ごすため、各自の体力維持・向上の運動方法と、生活を豊かにする基礎的な知識、態度、技術を身につけるとともに、卒業後の活動に役立てることのできる指導方法も学びます。			
<到達目標> 1. 体を動かす楽しさと喜びを再認識できる、各自の体力に合わせた健康体力作りの理論と実践を習得します。 2. 庭球と卓球について、練習法、ルール、試合に必要な技術について学ぶことで、その基礎を獲得します。			
<授業の概要> 庭球、卓球の試合が行えるようになるために、以下の事柄について学びます。 1. ゲームを構成するすべての技術について、その技術を習得します。 2. ゲームを構成するすべてのルールを習得します。 3. 学期が終わったあとも自己学習ができるように練習の仕方を学びます。			
<履修条件> 各自が参加できるレベル、方法で行います。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 コーディネーション・トレーニングの理論と実践 第3回 テニスのルールと用具の歴史（以下、テニス） 第4回 フォアハンドボレー、バックハンドボレー 第5回 フォアハンド・ストローク（トップスピン打法の習得） 第6回 バックハンド・ストローク、ミニゲーム 第7回 サービスとレシーブ 第8回 ダブルス・ゲーム 第9回 シングルス・ゲームとテニスのまとめ 第10回 ピンポン、卓球のルールと用具の歴史（以下、卓球） 第11回 バックハンド・ショート（またはハーフボレー）（ドライブサーブとカットサーブ） 第12回 フォアハンド・ストローク（ドライブ打法の習得） 第13回 多球練習による分習法、制限付きゲームによる全習法 第14回 シングルスとダブルスの試合 第15回 シングルスとダブルスの試合			
<準備学習等の指示> 1. 運動に適した服装に着替えること。 2. それぞれの種目に適した靴を用意すること。 3. 体調に十分留意すること。			
<テキスト> 井上俊・菊幸一（編）（新版）『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房（購入の必要はありません。）			
<参考書・参考資料等> 橋本純一（編）『現代メディアスポーツ論』世界思想社（購入の必要はありません。） その他、授業でお伝えします。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 技能：60％ 時間ごとの観察により評価します。 知識：20％ 実際にゲームを進行していく知識を評価します。 態度：20％ 運動に適した服装などの用意ができているか、授業に積極的に参加しているかを評価します。出席が2/3に満たない場合、成績評価の対象にしません。			

専門教育科目必修・聖書神学関係		
旧約聖書神学Ⅰ	小友 聡	<担当形態> 単独
前期・２単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目>	
	〔旧法〕教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	〔新法〕教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>	
	〔旧法〕宗教学	
	〔新法〕教科に関する専門的事項（宗教学）	
<授業のテーマ>		
旧約緒論の総論と五書問題について考察する。		
<到達目標>		
旧約聖書とは何かという根本問題に歴史的文献学的見地から取り組み、旧約聖書の全体像をつかむ。旧約聖書を学問的に考察することに慣れる。		
<授業の概要>		
まず旧約聖書学研究史を学び、正典としての旧約聖書の成立過程と歴史的背景、さらに本文伝承の歴史を概観する。その後、五書問題の諸問題について考察する。なお、申命記はⅡで扱う。		
<履修条件>		
旧約聖書神学ⅡおよびⅢより先に受講することが望ましい。		
<授業計画>		
第１回 オリエンテーション		
第２回 旧約聖書入門		
第３回 近代の旧約聖書学研究史（19世紀のヴェルハウゼンまで）		
第４回 近代の旧約聖書学研究史（ヴェルハウゼン～現代）		
第５回 正典とは何か		
第６回 旧約正典の形成史		
第７回 正典と本文		
第８回 本文伝承の歴史		
第９回 古代語訳概観（ギリシア語、アラム語、シリア語など）		
第１０回 モーセ五書批判（総論）		
第１１回 モーセ五書批判（研究史の諸問題）		
第１２回 ヤーウィスト		
第１３回 エローヒスト		
第１４回 祭司文書		
第１５回 まとめ		
定期試験		
<準備学習等の指示>		
旧約聖書を通読していることを前提としている。教科書をよく読むこと。聖書学の学術的な議論に戸惑う人がいるかも知れないが、旧約聖書を理解したいという意欲を持って授業を聴き、わからないことは質問すること。		
<テキスト>		
左近淑（大住編）『旧約聖書緒論講義』教文館（増補版）を各自購入すること。その都度、テキストを補う。		
<参考書・参考資料等>		
レジュメと文献表を授業中に配布する。		
<学生に対する評価（方法・基準）>		
学期末に筆記試験を行い、それによって評価する。出席重視。共通評価指標（Ⅰ）の①～③を重視する。		

専門教育科目必修・聖書神学関係			
旧約聖書神学Ⅱ		小友 聡	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	〔旧法〕教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	〔新法〕教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
	〔旧法〕宗教学		
	〔新法〕教科に関する専門的事項（宗教学）		
＜授業のテーマ＞			
モーセ五書の第5の書である申命記および申命記の歴史、歴代誌の歴史、さらに知恵文学と詩文学を学問的に考察する。			
＜到達目標＞			
五書と申命記の歴史の繋がり、また申命記の歴史と歴代誌の歴史の緊張関係を理解し、さらに知恵文学と詩文学の全体像を把握する。今学期は知恵文学・詩文学に重点を置く。			
＜授業の概要＞			
申命記および申命記の歴史、歴代誌の歴史、知恵文学、詩文学について、テキストに基づいて概観する。			
＜履修条件＞			
旧約聖書神学Ⅰを履修済みであることが望ましい。			
＜授業計画＞			
第1回 申命記の歴史の総論と研究史（M.ノート以前）			
第2回 申命記の歴史の研究史（M.ノート以降）			
第3回 申命記の歴史の諸文書（各論）			
第4回 申命記の総論			
第5回 申命記の各論			
第6回 歴代誌の歴史の総論			
第7回 歴代誌の歴史の各論			
第8回 知恵文学の総論			
第9回 ヨブ記			
第10回 箴言とコヘレトの言葉			
第11回 詩編の総論			
第12回 詩編の各論			
第13回 詩編23編			
第14回 詩編以外の詩文学			
第15回 まとめ			
定期試験			
＜準備学習等の指示＞			
教科書をよく読むこと。旧約聖書をよく理解したいという意欲を持って授業に臨むこと。			
＜テキスト＞			
左近淑（大住編）『旧約聖書緒論講義』教文館（増補版）を用いる、なお、この中で扱われていない授業項目は、W.H.シュミット（木幡訳）『旧約聖書入門上・下』教文館が役に立つ。			
＜参考書・参考資料等＞			
レジュメと文献表を授業中に配布する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞			
学期末に筆記試験をして評価する。出席重視。共通評価指標（1）の①～③を重視する。			

専門教育科目必修・聖書神学関係		
旧約聖書神学Ⅲ		田中 光
		<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 特になし
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目>	
	〔旧法〕教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	〔新法〕教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>	
	〔旧法〕宗教学	
	〔新法〕教科に関する専門的事項（宗教学）	
<授業のテーマ>		
預言者とは何かという問いを、具体的な旧約テキストとその研究史を考察することを通して、探究する。		
<到達目標>		
預言者についての本質的な理解を深めるとともに、預言書全般についての概説的知識を獲得する。		
<授業の概要>		
最初の数回で、預言者についての総論的知識を学び、その後、書物ごとに学びを深める。書物ごとの学びでは、その預言書の最近の研究状況の紹介、鍵となる神学的テーマについての考察などがなされる。		
<履修条件>		
旧約聖書神学Ⅰ履修済み、または並行して履修中であること。		
<授業計画>		
第1回 オリエンテーション： 授業目的と授業計画の確認		
第2回 旧約「預言（者）」の諸相： 歴史書、預言書における「預言」通観、及び預言書についての研究史概観		
第3回 イザヤ書①： 緒論		
第4回 イザヤ書②： 「メシア預言」について		
第5回 イザヤ書③： 「僕の歌」について		
第6回 エレミヤ書①： 緒論		
第7回 エレミヤ書②： 「新しい契約」について		
第8回 エゼキエル書①： 緒論		
第9回 エゼキエル書②： 主の神殿の幻について		
第10回 十二小預言書①： 緒論①（ホセア、アモス書）		
第11回 十二小預言書②： 緒論②（上記以外の12小預言書）		
第12回 十二小預言書③： 「メシア預言」について		
第13回 ダニエル書①： 緒論、研究史概観、主要な神学的テーマについての概説		
第14回 ダニエル書②： ダニエル書のメシアニズム（？）について		
第15回 補論的考察： 現象としての預言からカノン形成及びテキスト解釈としての預言への移行について		
<準備学習等の指示>		
授業毎に、その回に関係する聖書テキストを読み、また教科書の該当部分を読んでもらうこと。		
<テキスト>		
左近淑（大住雄一編）『旧約聖書緒論講義』教文館。		
<参考書・参考資料等>		
B. S. Childs, <i>Introduction to the Old Testament as Scripture</i> ; C. J. Sharp (ed.), <i>The Oxford Handbook of the Prophets</i> ; J. Jeremias, <i>Theologie des Alten Testaments</i> ; その他、初回授業で指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）>		
授業への貢献と、期末レポートによって成績をつける。理由なく授業に三分の一以上欠席した場合は、レポートを提出できない。		

専門教育科目必修・聖書神学関係			
旧約聖書釈義 a		小友 聡	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（宗教学）		
<授業のテーマ> 旧約聖書に基づく説教を目指して釈義の課題を考え、また、その思想と手法を学ぶ。			
<到達目標> 釈義の手法の概略を学ぶ。			
<授業の概要> 釈義の関する教科書を読み、釈義の方法論や必要な情報と知見を具体的にきちんと学ぶ。			
<履修条件> 旧約聖書神学Ⅰを履修済みであることが望ましい。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 釈義とは何か 第3回 釈義について基本的な概念、用語 第4回 第1章1－7：釈義の全過程についての手引き（前半） 第5回 第1章8－11：釈義の全過程についての手引き（後半） 第6回 第2章1－4：釈義と原典本文（前半） 第7回 第2章5－12：釈義と原典本文（後半） 第8回 第3章1－4：説教のための釈義の簡潔な手引き（前半） 第9回 第3章5－7：説教のための釈義の簡潔な手引き（後半） 第10回 第4章1：釈義の参考図書（本文批評） 第11回 第4章2－3：釈義の参考図書（翻訳、文法） 第12回 第4章4－6：釈義の参考図書（語彙的な分析、様式、構造） 第13回 第4章7－8：釈義の参考図書（歴史的な文脈、文学的な分析） 第14回 第4章9－11：釈義の参考図書（聖書の文脈、神学、適用） 第15回 第4章12：釈義の参考文献（二次文献）			
<準備学習等の指示> 釈義の教科書をきちんと読む。			
<テキスト> D.スチュアート（山吉訳）『旧約聖書の釈義』、教文館、2017年（3,500円）を用いる。			
<参考書・参考資料等> その都度、授業の中で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度と期末のレポートで評価する。理由なく授業の三分の一以上を欠席した者は、レポートを提出することができない。レポートの課題は、夏休み前に提示する。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
旧約聖書釈義 b		小友 聡	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
教科に関する専門的事項（宗教学）			
<授業のテーマ> 旧約聖書に基づく説教を目指して釈義の課題を考え、また、その思想と手法を学ぶ。			
<到達目標> 釈義の手法を身に着ける。			
<授業の概要> 前期で学んだ釈義の方法を、具体的な旧約テキストに適用して釈義を試みる。			
<履修条件> 前期で学んだことを前提とするが、後期のみ履修も可能である。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 諸翻訳の読み比べ 第3回 イザヤ書 61 章 1－4 節 第4回 その釈義 第5回 創世記 27 章 18－29 節 第6回 その釈義 第7回 哀歌 3 章 16－33 節 第8回 その釈義 第9回 エレミヤ書 23 章 18－29 節 第10回 その釈義 第11回 ハバクク書 2 章 1－4 節 第12回 その釈義 第13回 列王記上 19 章 1－18 節 第14回 その釈義 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 毎回の授業に先立って、扱われるテキストをきちんと読み、釈義について考える。			
<テキスト> 複数の日本語訳聖書。			
<参考書・参考資料等> その都度指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度と学期末に提出していただく釈義レポートで評価する。理由なく三分の一以上を欠席した者は、レポートを提出することができない。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
新約聖書神学Ⅰ		中野 実	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 新約聖書神学Ⅱと通年で履修すること	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	〔旧法〕教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	〔新法〕教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
〔旧法〕宗教学			
〔新法〕教科に関する専門的事項（宗教学）			
＜授業のテーマ＞ 新約聖書神学の諸課題について学ぶ。			
＜到達目標＞ 新約聖書がいかなる書物であるかを深く把握し、新約聖書を学問的に読むことの神学的意義を理解できるようになる。			
＜授業の概要＞ 新約聖書神学Ⅰでは、おもに講義を通して、まず序論として、聖書とは何か？聖書学、聖書神学とは何か？聖書正典とは何か、などについて学ぶ。次に各論に入り、福音書研究の基礎的事柄について学ぶ。			
＜履修条件＞ ギリシャ語Ⅰを並行して履修していること			
＜授業計画＞			
第1回 聖書を学問的に読むとは？ 聖書とは何か？			
第2回 聖書を学問的に読むとは？ 聖書を学問の対象にするとは？			
第3回 聖書を学問的に読むとは？ 聖書学とは？聖書の批判的研究			
第4回 聖書を学問的に読むとは？ 近代、現代聖書学のルーツとその展開			
第5回 新約聖書とは何か？ 新約聖書という名称について			
第6回 新約聖書とは何か？ 旧約聖書について			
第7回 新約聖書とは何か？ 新約聖書の文学、初期キリスト教文学としての新約聖書			
第8回 新約聖書とは何か？ 正典としての新約聖書①正典とは？			
第9回 新約聖書とは何か？ 正典としての新約聖書②正典化プロセス			
第10回 新約聖書とは何か？ 新約聖書の写本について			
第11回 新約聖書とは何か？ 新約聖書の時代史について			
第12回 福音書とは何か？ 福音と福音書			
第13回 福音書文学：福音書は伝記か？			
第14回 共観福音書問題1 共観福音書とは何か？それらをめぐる諸仮説			
第15回 共観福音書問題2 マルコ優先説、二資料仮説、Q資料などについて			
＜準備学習等の指示＞聖書を日頃からよく読むこと。			
＜テキスト＞旧・新約聖書。旧約聖書も必ず持ってくる事。			
＜参考書・参考資料等＞樋口、中野『聖書学用語辞典』日本基督教団出版局、およびタイセン『新約聖書：歴史、文学、宗教』教文館。その他、必要に応じてクラスで指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞出席が三分の二に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。評価は、期末のレポート（および小テスト）に基づいてなされる。レポートにおいては、課題やテキストを正しく理解しつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であるかどうかの評価の指標となる。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
新約聖書神学Ⅱ		中野 実	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 新約聖書神学Ⅰと通年で履修すること	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	〔旧法〕教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	〔新法〕教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
	〔旧法〕宗教学		
	〔新法〕教科に関する専門的事項（宗教学）		
＜授業のテーマ＞ 新約聖書を学問的に読むことの神学的意義を理解しつつ、福音書について学ぶ。			
＜到達目標＞ 新約聖書正典に含まれる四福音書に関する学問的基礎知識を身につけることができる。			
＜授業の概要＞ 新約聖書神学Ⅰでの学びを前提にしつつ、四福音書それぞれが有している歴史的、文学的、神学的特徴について学ぶ。			
＜履修条件＞ ギリシャ語Ⅱを並行して履修していること。			
＜授業計画＞			
第1回 マルコ福音書：緒論的歴史的諸問題			
第2回 マルコ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開			
第3回 マルコ福音書：神学的諸問題			
第4回 マタイ福音書：緒論的歴史的諸問題			
第5回 マタイ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開			
第6回 マタイ福音書：神学的諸問題			
第7回 ルカ福音書：緒論的歴史的諸問題			
第8回 ルカ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開			
第9回 ルカ福音書：神学的諸問題			
第10回 ヨハネ福音書：歴史的諸問題			
第11回 ヨハネ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開			
第12回 ヨハネ福音書：神学的諸問題			
第13回 ルカ文書について			
第14回 ヨハネ文書について			
第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞新約聖書神学Ⅰの項目を参照			
＜テキスト＞旧、新約聖書。ギリシャ語新約聖書も持参すること。			
＜参考書・参考資料等＞必要に応じて、クラスで指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞出席が三分の二に達しない場合、原則として評価の対象にしない。評価は、期末レポートを中心になされる。レポートにおいては、課題やテキストに対する適切な理解に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であることが求められる。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
新約聖書神学Ⅲ		焼山 満里子	<担当形態> 単独
後期・２単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（宗教学）		
<授業のテーマ> 使徒パウロの伝道活動と神学に親しむ。			
<到達目標> コリントの信徒への手紙一を中心にパウロ神学全体を見通し理解する。			
<授業の概要> コリントの信徒への手紙一を一章ずつ読む。			
<履修条件> ギリシア語履修が終わっていること。			
<授業計画> 第１回 使徒言行録によるパウロの伝道旅行 第２回 コリント一１章、１６章、全体概観 第３回 コリント一２章 第４回 コリント一３章 第５回 コリント一４章 第６回 コリント一５、６章 第７回 コリント一７章 第８回 コリント一８章 第９回 コリント一９章 第１０回 コリント一１０章 第１１回 コリント一１１章 第１２回 コリント一１２章 第１３回 コリント一１３章 第１４回 コリント一１４章 第１５回 コリント一１５章 定期試験			
<準備学習等の指示> 各回講読箇所を予習してから授業に出席すること。			
<テキスト> リチャード・ヘイズ『コリントの信徒への手紙一』現代聖書註解、日本基督教団出版局、2002 年。			
<参考書・参考資料等> 適宜指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の授業参加と期末試験。			

専門教育科目必修・聖書神学関係		
新約聖書釈義 a	中野 実	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 学部4年生を中心としたクラス	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目>	
	[旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	[新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>	
	[旧法] 宗教学	
	[新法] 教科に関する専門的事項（宗教学）	
<授業のテーマ> 新約聖書に関する学問的な釈義の方法について学ぶクラス		
<到達目標> このクラスを通して、釈義の方法論を身につけ、より主体的に新約聖書の解釈にたずさわることができるようになる。		
<授業の概要> 前期は、概論ののち、フィー『新約聖書の釈義』を主として用いつつ、釈義の方法について学ぶ。		
<履修条件> ギリシア語初級文法をすでに履修済みであること。通年で履修する事。		
<授業計画>		
第1回 オリエンテーション：クラスの目標と課題について		
第2回 釈義とは何か？ 釈義の具体的課題について		
第3回 フィー『新約聖書の釈義』序論および第1章「釈義の全過程についての手引き」		
第4回 ステップ1 歴史的脈絡の概観		
第5回 ステップ2 章句の区切りの確認		
第6回 ステップ3 段落・ペリコーペの熟知：説明		
第7回 ステップ3 段落・ペリコーペの熟知：実践：暫定訳の作成、他の翻訳との比較など。		
第8回 ステップ4 文の構成と統語的關係の分析：説明		
第9回 ステップ4 文の構成と統語的關係の分析：実践、文の流れの図式化		
第10回 ステップ5 本文の確定：本文批評の説明		
第11回 ステップ5 本文批評の実際		
第12回 ステップ6 文法の分析：説明		
第13回 ステップ6 文法の分析：実践		
第14回 説教のための釈義とは？		
第15回 説教の準備について		
顔ぶれや進み具合などを勘案しながら、スケジュールを変更する場合もある。		
<準備学習等の指示> 釈義は、ただ講義を聴いているだけでは身に付かない。実際に自分で試みて見る事が必要。釈義は苦労して身につけるしか道はない！ギリシア語新約聖書をコツコツ読む努力をすること、また教科書をよく読んで出席すること。		
<テキスト> ゴードン・フィー『新約聖書の釈義』教文館、1998年、および中野ほか『新約聖書解釈の手引き』日本基督教団出版局、2016年をクラスの初回までに各自で購入しておくこと。ギリシア語の新約聖書も毎回持参すること。		
<参考書・参考資料等> 必要に応じて、クラスで指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席が三分の二に達していない場合、原則として評価の対象としない。毎回のクラスでの姿勢、期末のレポートなどによって総合的に評価する。レポートにおいては、テキストに対する適切な理解に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であるかどうかの評価の指標となる。		

専門教育科目必修・聖書神学関係		
新約聖書釈義 b	中野 実	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 学部4年生を中心としたクラス	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目>	
	[旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	[新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>	
	[旧法] 宗教学	
	[新法] 教科に関する専門的事項（宗教学）	
<授業のテーマ> 新約聖書の釈義の方法と実践を学ぶ。		
<到達目標> このクラスを通して、基本的な釈義の技術を身につけ、より主体的に新約聖書の解釈にたずさわることができるようになる。		
<授業の概要> 後期も引き続き、フィーの教科書を用いるが、『新約聖書解釈の手引き』などを通して、新しい方法論についても学びを進める。		
<履修条件> ギリシア語初級文法をすでに履修済みであること。通年で履修する事。		
<授業計画>		
第1回	フィーの教科書の続き、ステップ7 語の分析：その説明	
第2回	ステップ7 語の分析：その実践	
第3回	ステップ8 歴史的文化的背景の探求：その説明と文献紹介	
第4回	ステップ8 歴史的文化的背景の探求：具体例	
第5回	書簡の釈義、ステップ9 書簡文学の特徴と形式について	
第6回	書簡の釈義、ステップ9 書簡文学の修辞的分析について	
第7回	書簡の釈義、ステップ10 小区分、読者、キーワードなどの分析	
第8回	書簡の釈義、ステップ11 文学的コンテキストの確定	
第9回	福音書の釈義、福音書テキストの性質、福音書をめぐる諸仮説	
第10回	福音書の釈義、ステップ9 福音書の文学類型	
第11回	福音書の釈義、ステップ9 福音書の文学的様式、伝承	
第12回	福音書の釈義、ステップ10 共観表の用い方	
第13回	福音書の釈義、ステップ11 史的イエス研究	
第14回	歴史批評学的方法論の限界、それを乗り越える方法論	
第15回	まとめ	
<準備学習等の指示>新約聖書釈義 a の同項目を参照。		
<テキスト>新約聖書釈義 a の同項目を参照。		
<参考書・参考資料等>必要に応じて、クラスで指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）>出席が三分の二に達していない場合、原則として評価の対象としない。毎回のクラスでの姿勢、期末のレポートなどによって総合的に評価する。レポートにおいては、テキストに対する適切な理解に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であるかどうかの評価の指標となる。		

専門教育科目必修・聖書神学関係			
ギリシャ語Ⅰ（１・２）		三永 旨従	＜担当形態＞ 単独
前期・４単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 聖書のギリシャ語文法の基礎的理解を身につけ、その基本的読解能力を養う。			
＜到達目標＞ ギリシャ語新約聖書を正確に読む力をつける。基本的ギリシャ語文法、およびコンコーダンス・辞書の使い方を修得する。			
＜授業の概要＞ 前期は基本的文法を中心とする。 新約聖書のギリシャ語理解のために、テキストに則して基本文型を身につけていく。目的はあくまで新約文書群の読解にあるために練習問題は、ギリシャ語の日本語訳に限定する。授業の合間に、少しずつ、ギリシャ語新約聖書に慣れることも同時に行なう。前後期を通じ、特に原典で新約文書群を読むことの具体的な意義、及びそこから生じる違いについても学んでゆく。			
＜履修条件＞ ギリシャ語Ⅱと通年で履修する。			
＜授業計画＞ 第１回 新約聖書を原典で読むことについて 第２回 写本について 第３回 新約聖書のギリシャ語の特色 第４回 文字と発音 第５回 単語と音節 第６回 ギリシャ語のアクセントの特色 第７回 句読点 第８回 ギリシャ語動詞の活用について 第９回 動詞活用－現在形 第１０回 ギリシャ語名詞の特色 第１１回 名詞の変化－男性形 第１２回 名詞の変化－女性形 第１３回 ギリシャ語前置詞の特色 第１４回 前置詞の用法 第１５回 受動形能動態について 第１６回 中動形動詞のいろいろ 第１７回 動詞活用－中動形 第１８回 動詞活用－受動形 第１９回 ギリシャ語人称代名詞の特質 第２０回 人称代名詞 第２１回 未完了形動詞の特質 第２２回 動詞活用－未完了形 第２３回 ギリシャ語の過去時制について 第２４回 アオリスト形動詞の特質 第２５回 動詞活用－第一アオリスト形 第２６回 動詞活用－第二アオリスト形 第２７回 ギリシャ語の形容詞の特質 第２８回 ギリシャ語の形容詞の性、数、格 第２９回 形容詞の変化－男性形 第３０回 形容詞の変化－女性形 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 暗記するべき課題の多い教科である故、予習、復習とは別に各自さらにはグループ学習で反復練習する時間を取ることが望ましい。			
＜テキスト＞ ・J. G. メイチェン著 田辺滋訳『新約聖書 ギリシャ語原典入門』新生宣教団（学生各自で用意する。） ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。）			
＜参考書・参考資料等＞ 適宜指示する			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 各授業時間に行なわれる練習問題、及び学期末の試験（口頭試問）			

専門教育科目必修・聖書神学関係		
ギリシャ語Ⅱ	三永 旨従	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
＜授業のテーマ＞ 新約聖書原典を辞書その他の手段を用いながらも一人で読解できる能力を養う。		
＜到達目標＞ ギリシャ語文法の理解を深め、読解能力を習得する。		
＜授業の概要＞ ギリシャ語Ⅰに続けて基礎文法を終わらせ、具体的な新約文書群の読解に入る。 各授業毎にギリシャ語特有の文法体系に由来する特徴を具体的にテキストにあたって学ぶ。基本文法を終わらせると同時に、実際に新約文書群を読む際に、大きな障害となり易い点（分詞構文、不定詞構文等）にも焦点をあてる。上記の留意点を考慮しつつ、より平易な新約文書を実際に読んでいく。		
＜履修条件＞ ギリシャ語Ⅰの履修		
＜授業計画＞ 第１回 動詞の変化－分詞 第２回 母音融合動詞 第３回 流音動詞 第４回 動詞の変化－不定法 第５回 動詞の変化－希求法 第６回 疑問代名詞 第７回 関係代名詞 第８回 動詞の変化－命令法 第９回 特殊形動詞 第１０回 冠詞とその用法 第１１回 動詞の変化－接続法 第１２回 数詞 第１３回 独立属格の構文 第１４回 不定詞+名詞の目的格の構文 第１５回 分詞の述語的用法 定期試験		
＜準備学習等の指示＞ 暗記すべき課題の多い教科である故、予習、復習とは別に各自反復練習する時間を取ることが望ましい。		
＜テキスト＞ ・J. G. メイチェン著 田辺滋訳『新約聖書 ギリシャ語原典入門』新生宣教団（学生各自で用意する。） ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE または UBS 版 Greek New Testament（学生各自で用意する。） ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。）		
＜参考書・参考資料等＞ 適宜指示する		
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 各授業時間に行なわれる練習問題、及び学期末の試験（筆記試験）		

専門教育科目必修・組織神学関係			
組織神学 I a		須田 拓	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 原則として組織神学 Ib と通年で履修する	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）			
<授業のテーマ> 組織神学の中の教義学について扱う。			
<到達目標> 教義学の基礎的な知識を身に付け、私たちが何を信じ伝えるのかを神学的に考えることができるようになる。			
<授業の概要> 私たちが聖書全体から何をどのように信じているのかを論理的に説明する学問としての教義学について講義する。前期は、序論（プロレゴメナ）から創造論までを扱う。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画>			
第1回 オリエンテーション			
第2回 教義学とは何か			
第3回 啓示論(1) 神をどのようにして知るのか			
第4回 啓示論(2) 啓示について			
第5回 啓示論(3) 聖書とは何か			
第6回 啓示論(4) 聖書の正典性			
第7回 神論(1) 三位一体の神			
第8回 神論(2) 三位一体論の論点と三位一体論的神学について			
第9回 神論(3) 神の本質と属性			
第10回 中間総括			
第11回 創造論(1) 創造について			
第12回 創造論(2) 人間とその罪について			
第13回 創造論(3) 創造のその他のテーマについて			
第14回 創造論(4) 悪の問題と神義論			
第15回 まとめ			
定期試験			
<準備学習等の指示> その教理に関係する聖書箇所をよく読んでくる。			
<テキスト> 特になし。			
<参考書・参考資料等> 必要に応じて授業の中で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況と定期試験によって評価する。授業の進み方によっては、中間レポートを課す場合がある。評価にあたっては、共通評価指標(1)記載項目中の①～④を重視する。			

専門教育科目必修・組織神学関係			
組織神学 I b		須田 拓	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 原則として組織神学 Ia と通年で履修する	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）			
<授業のテーマ> 組織神学の中の教義学について扱う。			
<到達目標> 教義学の基礎的な知識を身に付け、私たちが何を信じ伝えるのかを神学的に考えることができるようになる。			
<授業の概要> 私たちが聖書全体から何をどのように信じているのかを論理的に説明する学問としての教義学について講義する。 後期は、キリスト論から終末論までを扱う。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画>			
第1回 オリエンテーション			
第2回 キリスト論(1) キリストの人格について			
第3回 キリスト論(2) キリスト論の方法と課題について			
第4回 贖罪論(1) 贖罪とその諸類型			
第5回 贖罪論(2) 三位一体論的贖罪論			
第6回 救済論(1) 選び, 義認			
第7回 救済論(2) 聖霊の働きと再生・聖化			
第8回 中間総括			
第9回 伝道論 人間の応答と伝道			
第10回 教会論(1) 教会の本質と働き			
第11回 教会論(2) 聖礼典について			
第12回 終末論(1) 終末の表象			
第13回 終末論(2) 現在的終末論と将来的終末論			
第14回 終末論(3) 個人的終末論と社会的終末論			
第15回 まとめ			
定期試験			
<準備学習等の指示> その教理に関係する聖書箇所をよく読んでくる。			
<テキスト> 特になし。			
<参考書・参考資料等> 必要に応じて授業の中で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況と中間レポート及び定期試験によって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標(1)記載項目中の①～④を重視する。			

専門教育科目必修・組織神学関係			
組織神学Ⅱ a		芳賀 力	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 通年（a, b）の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	[旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	[新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
[旧法]「教理学、哲学」つうね			
[新法] 教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）			
<授業のテーマ> 福音に基づいて、キリスト者の行動規範となる倫理学を取り扱う。			
<到達目標> キリスト教倫理の成立根拠を正しく理解し、更に現代の具体的諸問題に対処する道筋を理解する。			
<授業の概要> 現代の倫理的状況を把握した上で、キリスト教的倫理学の特質を顧みる。その上で、身体と生命をめぐる諸問題とその対処法を考察する。			
<履修条件> 組織神学Ⅰを履修済みか、並行して履修していること。			
<授業計画>			
第1回 現代の状況（1）：自由至上主義 vs 共同体主義論争			
第2回 現代の状況（2）：道徳の断片化と情緒主義（A・マッキンタイアの問題提起）、功利主義的個人主義（R・ベラーの問題提起）			
第3回 現代の状況（3）：個と共同体、ニーバー、マクマリー、リースマン、情報化という新しい要素			
第4回 自然法と良心：自然法、良心（ルター）、道徳律（カント）			
第5回 良心と律法：自然神学論争：ブルンナーvs バルト、一般恩恵、特殊恩恵			
第6回 律法と福音：ルター派モデル、改革派モデル、バルト、エラート、アルトハウス			
第7回 義認と聖化：性格形成の倫理：ハワーワス、聖化の共同性（カルヴァン）、聖書のナラティブによる内的訓練			
第8回 召命と委託：創造秩序、保持秩序（キュネート）、委託の領域と召命（ボンヘッフアー）			
第9回 終末論と中間倫理：神の国の希望、神の国とキリスト者、神の国と教会			
第10回 身体と生命（1）：キリスト教的人間理解、SOLとQOL、生命の始期を巡る諸問題			
第11回 身体と生命（2）：生命の中期を巡る諸問題			
第12回 身体と生命（3）：生命の末期を巡る諸問題			
第13回 身体と生命（4）：キリスト教的自然理解、環境倫理、技術倫理			
第14回 身体と生命（5）：生への畏敬			
第15回 総括			
<準備学習等の指示>			
ディスカッションに積極的に参加し、自分の意見を明確に述べるように心がける。			
<テキスト>			
拙著『使徒的共同体』教文館、2004年。参加者には著者割引で頒布する。			
<参考書・参考資料等>			
授業の中で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>			
出席を重視する。総括としてレポートを提出する。			

専門教育科目必修・組織神学関係			
組織神学Ⅱ b		芳賀 力	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 通年（a, b）の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	[旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	[新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
[旧法]「教理学、哲学」			
[新法] 教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）			
<授業のテーマ> 福音に基づいて、キリスト者の行動規範となる倫理学を取り扱う。			
<到達目標> キリスト教倫理の成立根拠を正しく理解し、更に現代の具体的諸問題に対処する道筋を理解する。			
<授業の概要> 現代の倫理的状況を把握した上で、キリスト教的倫理学の特質を顧みる。その上で、労働と文化、結婚と家庭、国家と政治をめぐる諸問題とその対処法を考察する。			
<履修条件> 組織神学Ⅰを履修済みか、並行して履修していること。			
<授業計画>			
第1回 労働と文化（1）：古代ギリシアの労働観、聖書の労働観、中世の労働観			
第2回 労働と文化（2）：プロテスタンティズムの労働倫理、良き労働への問いと社会的エコロジー、技術時代の倫理			
第3回 労働と文化（3）：制約における自由、神への応答としての労働、正しい仕事			
第4回 労働と文化（4）：余暇と文化、観想の伝統と安息日の意義、良き文化の形成			
第5回 労働と文化（5）：賜物への畏敬			
第6回 結婚と家庭（1）：男と女、愛についての誤解、聖書における愛の思想			
第7回 結婚と家庭（2）：召命と形成としての結婚、結婚的人格、ポストブライダル・ストーリー			
第8回 結婚と家庭（3）：結婚の危機、危機における牧会、結婚の教會的意義			
第9回 結婚と家庭（4）：親と子、家庭の崩壊と再建の課題、家族形成におけるディシプリン、信仰の教育			
第10回 結婚と家庭（5）：愛への畏敬			
第11回 国家と政治（1）：家族から市民社会へ、中間集団の意義、キリスト教的共同体と市民共同体、近い者と遠い者（民族問題）			
第12回 国家と政治（2）：教権と王権、ルター派的二王国説、改革派的キリストの王権			
第13回 国家と政治（3）：教会と国家の類比的関連、教会と国家の目的論的関連、バルメン宣言の意義			
第14回 国家と政治（4）：国家論の諸系譜、力・正義・愛、人権思想の基本理念			
第15回 国家と政治（5）：正義への畏敬			
<準備学習等の指示>			
ディスカッションに積極的に参加し、自分の意見を明確に述べるように心がける。			
<テキスト>			
拙著『大いなる物語の始まり』教文館、2001年。			
<参考書・参考資料等>			
授業の中で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>			
出席を重視する。総括としてレポートを提出する。			

専門教育科目必修・組織神学関係			
組織神学Ⅲ a		神代 真砂実	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 組織神学Ⅲ b（後期）と通年で履修すること。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）		
<授業のテーマ> 弁証学、つまり、キリスト教信仰の真理性を理性的に論証することで、キリスト教信仰に対する批判に応えることを課題とする組織神学の（第三の）分野についての総合的な学びをする。			
<到達目標> ①弁証学という分野についての基礎知識を得る。②弁証学的な考えや発想を身に着ける。③現代に日本における弁証学の構想を自分なりに考え始められるようになる。			
<授業の概要> Benno van den Toren の <i>Christian Apologetics as Cross-Cultural Dialogue</i> (London: T&T Clark, 2011)に準拠して講義を行なう。履修者は並行して各自で H・リチャード・ニーバーの『キリストと文化』（日本キリスト教団出版局、オンデマンド）を読む。			
<履修条件> 組織神学Ⅰを履修済みであること。また、弁証学は組織神学の応用編とも言えるので、履修者の主体的な思索が求められる。内容はやさしくないので、積極的に質問すること。			
<授業計画>			
第1回 I. 弁証学に対する二つの問題提起——1. 二つの問題提起／2. ポストモダン			
第2回 同——3. 弁証学の必要性①信仰と神学			
第3回 同——3. 弁証学の必要性②福音の普遍性			
第4回 同——4. 弁証学の定義／5. 概要			
第5回 II. 近代西洋の弁証学への批判——1. 基礎づけ主義の問題			
第6回 同——2. 言語の問題／3. 個人主義と集団主義の問題			
第7回 同——4. 総括			
第8回 III. 近代西洋の弁証学についての神学的評価——1. 近代批判の意義			
第9回 同——2. 近代以降の人間論			
第10回 同——3. 啓蒙主義と啓示の問題			
第11回 同——4. 実在からの疎外			
第12回 IV. キリスト教的人間論——1. 神の目的／2. 神のかたち（被造物の管理）／3. 神のかたち①（関係における存在）			
第13回 同——4. 神のかたち②（神との交わりにおける存在）			
第14回 同——5. 神のかたち③（信仰者でない者の場合）			
第15回 前期のまとめ			
<準備学習等の指示> 授業では、よくノートを取り、復習すること。			
<テキスト> H・リチャード・ニーバー、『キリストと文化』、赤城泰訳（日本キリスト教団出版局、オンデマンド）。			
<参考書・参考資料等> 主題に応じ、教員が適宜、授業中に指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> テキスト（ニーバー）に関する課題のプリントを提出する（複数回）。テキストの理解度（共通評価指標の③）が重視される。			

専門教育科目必修・組織神学関係			
組織神学Ⅲ b		神代 真砂実	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 前期と同じ。組織神学Ⅲ a（前期）と通年で履修すること。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）			
＜授業のテーマ＞ 前期と同じ。			
＜到達目標＞ 前期と同じ。			
＜授業の概要＞ 前期と同じ。			
＜履修条件＞ 前期と同じ。			
＜授業計画＞			
第1回 V. 実在——1. 実在との接触			
第2回 同——2. キリスト教的な知の理論			
第3回 同——3. 神と救済についての知識			
第4回 同——4. 啓示の証言としての弁証学			
VI. 文脈の問題——1. 異文化の問題			
第5回 同——2. 人間本性の探求			
第6回 同——3. 異文化コミュニケーション			
第7回 VII. 文化の壁を超える——1. 壁			
第8回 同——2. キリストの光			
第9回 同——3. 橋頭堡			
第10回 同——4. 二律背反の意味			
第11回 同——5. 教会			
第12回 同——6. 総括			
第13回 VIII. 心情の理由——1. 欲求・意志・理性			
第14回 同——2. キリストの十字架			
第15回 後期のまとめ			
＜準備学習等の指示＞ 前期と同じ。			
＜テキスト＞ 前期と同じ。			
＜参考書・参考資料等＞ 主題に応じ、教員が適宜、授業中に指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 前期と同じ。			

専門教育科目必修・歴史神学関係			
教会史Ⅰ		本城 仰太	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	〔旧法〕 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	〔新法〕 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
	〔旧法〕 宗教史		
	〔新法〕 教科に関する専門的事項（宗教史）		
＜授業のテーマ＞ 古代教会（教会のはじまりからアウグスティヌスの時代まで）の歴史と諸問題を学ぶ。			
＜到達目標＞ ①古代教会史の知識を身に着けるだけでなく、古代教会の歴史を整理して概観できる力を養う。 ②歴史史料（一次史料、二次史料）を用いて、諸問題を神学的に論じる力を養う。			
＜授業の概要＞ 古代教会史を、毎回、一次史料と二次史料にあたりながら、テーマごとに講義する。			
＜履修条件＞ 特になし。			
＜授業計画＞			
第1回 ガイダンス、教会のはじまりと地中海世界			
第2回 教会と国家：教会への迫害			
第3回 使徒教父たち			
第4回 弁証家たち			
第5回 正統と異端①：エイレナイオス			
第6回 正統と異端②：テルトゥリアヌスとキプリアヌス			
第7回 アレクサンドリア学派：クレメンスとオリゲネス			
第8回 コンスタンティヌス帝とキリスト教公認			
第9回 修道院運動			
第10回 キリスト論論争①：アレクサンドリア主義とニカイア信条			
第11回 キリスト論論争②：アタナシオスとニカイア・コンスタンティノポリス信条			
第12回 カップドキア三教父			
第13回 4～5世紀の教会①：アンブロシウス、クリュソストモス、ヒエロニムス			
第14回 4～5世紀の教会②：アウグスティヌスとその神学			
第15回 総括			
期末試験			
＜準備学習等の指示＞ ノートを取り、講義内容を＜参考書＞などによって補いながら、自分で整理していくこと。			
＜テキスト＞ 特に定めない。毎回プリントを配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 1. J. ゴンザレス『キリスト教史（上巻）』（新教出版社） 2. W. ウォーカー『キリスト教史①古代教会』（ヨルダン社） 3. ブロック『古代教会史』（教文館）			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 講義の出席を前提とし、①期末試験 および ②レポートによって総合的に評価する。			

専門教育科目必修・歴史神学関係		
教会史Ⅱ	本城 仰太	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目>	
	〔旧法〕教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	〔新法〕教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>	
	〔旧法〕宗教史	
	〔新法〕教科に関する専門的事項（宗教史）	
<授業のテーマ> 中世（アウグスティヌス後から宗教改革前まで）の教会の歴史と諸問題を学ぶ。		
<到達目標> ①中世の教会史の知識を身に着けるだけでなく、歴史を整理して概観できる力を養う。 ②歴史史料（一次史料、二次史料）を用いて、諸問題を神学的に論じる力を養う。		
<授業の概要> 中世の教会史を、毎回、一次史料と二次史料にあたりながら、テーマごとに講義する。		
<履修条件> 特になし。		
<授業計画>		
第1回 ガイダンス、古代から中世へ		
第2回 中世初期の教会と伝道		
第3回 教会と国家①：神聖ローマ帝国の成立		
第4回 教会と国家②：西方教会と東方教会		
第5回 教会と国家③：叙任権闘争		
第6回 修道院運動①：修道院運動の展開		
第7回 修道院運動②：修道院の刷新運動		
第8回 十字軍		
第9回 修道院運動③：托鉢修道会		
第10回 教会と国家④：教皇権の絶頂		
第11回 スコラ神学①：初期（アンセルムスとアベラルドゥス）		
第12回 スコラ神学②：盛期（トマス・アクィナスとボナヴェントゥーラ）		
第13回 教会と国家⑤：教皇庁の衰退		
第14回 中世から宗教改革時代へ		
第15回 総括		
期末試験		
<準備学習等の指示> ノートを取り、講義内容を<参考書>などによって補いながら、自分で整理していくこと。		
<テキスト> 特に定めない。毎回プリントを配布する。		
<参考書・参考資料等> 1. 出村彰『中世キリスト教の歴史』（教団出版局） 2. J. ゴンザレス『キリスト教史（上巻）』（新教出版社）		
<学生に対する評価（方法・基準）> 講義の出席を前提とし、①期末試験 および ②小レポートによって総合的に評価する。		

専門教育科目必修・歴史神学関係			
教会史Ⅲ		本城 仰太	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	〔旧法〕 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	〔新法〕 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
	〔旧法〕 宗教史		
	〔新法〕 教科に関する専門的事項（宗教史）		
＜授業のテーマ＞ 宗教改革期（改革前史、ルターの改革から各地の宗教改革まで）の歴史と諸問題を学ぶ。			
＜到達目標＞ ①宗教改革史の知識を身に着けるだけでなく、宗教改革の歴史を整理して概観できる力を養う。 ②歴史史料（一次史料、二次史料）を用いて、諸問題を神学的に論じる力を養う。			
＜授業の概要＞ 宗教改革史を、毎回、一次史料と二次史料にあたりながら、テーマごとに講義する。			
＜履修条件＞ 特になし。			
＜授業計画＞			
第1回 宗教改革前史①：教会改革の必要性			
第2回 宗教改革前史②：エラスムスと人文主義			
第3回 ドイツの改革①：改革者ルター			
第4回 ドイツの改革②：ルターの神学			
第5回 ドイツの改革③：ルター派教会の形成			
第6回 スイスの改革①：ツヴィングリ			
第7回 再洗礼派			
第8回 スイスの改革②：カルヴァン			
第9回 カルヴァンの神学と改革派教会の形成			
第10回 改革者たちの神学：聖餐論、洗礼論、教会論			
第11回 イングランドの改革			
第12回 スコットランドの改革			
第13回 諸信条・信仰告白・問答			
第14回 カトリック教会の改革			
第15回 総括			
期末試験			
＜準備学習等の指示＞ ノートを取り、講義内容を＜参考書＞などによって補いながら、自分で整理していくこと。			
＜テキスト＞ 特に定めない。毎回プリントを配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 1. J. ゴンザレス『キリスト教史（下巻）』（新教出版社） 2. 出村彰『総説 キリスト教史2 宗教改革篇』（日本キリスト教団出版局）			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 講義の出席を前提とし、①期末試験 および ②レポートによって総合的に評価する。			

専門教育科目必修・歴史神学関係			
教会史Ⅳ		本城 仰太	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位		＜登録条件＞ 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	〔旧法〕 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	〔新法〕 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
	〔旧法〕 宗教史		
	〔新法〕 教科に関する専門的事項（宗教史）		
＜授業のテーマ＞ 近現代（宗教改革後）の教会の歴史と諸問題を学ぶ。			
＜到達目標＞ ①近現代の教会史の知識を身に着けるだけでなく、歴史を整理して概観できる力を養う。 ②歴史史料（一次史料、二次史料）を用いて、諸問題を神学的に論じる力を養う。			
＜授業の概要＞ 近現代の教会史を、毎回、一次史料と二次史料にあたりながら、テーマごとに講義する。			
＜履修条件＞ 特になし。			
＜授業計画＞			
第１回 ガイダンス、宗教改革から近現代へ			
第２回 正統主義①：英国国教会とピューリタン革命			
第３回 正統主義②：改革派教会とアルミニウス主義			
第４回 正統主義③：トリエント公会議後のカトリック教会			
第５回 正統主義④：ルター派教会と敬虔主義			
第６回 アメリカにおける教会①：植民地時代			
第７回 メソジスト運動			
第８回 アメリカにおける教会②：信仰復興運動			
第９回 アメリカにおける教会③：独立宣言から南北戦争			
第１０回 啓蒙主義（合理主義と経験主義）			
第１１回 １８～１９世紀のヨーロッパの教会			
第１２回 プロテスタント神学①：自由主義神学			
第１３回 プロテスタント神学②：弁証法神学			
第１４回 ２０世紀の教会			
第１５回 総括			
期末試験			
＜準備学習等の指示＞ ノートを取り、講義内容を＜参考書＞などによって補いながら、自分で整理していくこと。			
＜テキスト＞ 特に定めない。毎回プリントを配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ １．栗林他『総説 キリスト教史 ３ 近・現代篇』（日本キリスト教団出版局） ２．J. ゴンザレス『キリスト教史（下巻）』（新教出版社）			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 講義の出席を前提とし、①期末試験 および ②小レポートによって総合的に評価する。			

専門教育科目必修・歴史神学関係			
教会史Ⅴ		芳賀 力	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 特に条件はないが、再履修も可	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	〔旧法〕教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	〔新法〕教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
〔旧法〕宗教史			
〔新法〕教科に関する専門的事項（宗教史）			
<授業のテーマ>			
日本におけるプロテスタント・キリスト教の歴史を明治から現代まで通観し、日本伝道の課題について考える。			
<到達目標>			
各時代の背景を押さえた上で、歴史的事実や代表的人物の神学思想を正確に把握する。			
<授業の概要>			
明治、大正、昭和、戦中・戦後、特に日本基督教団の成立と危機、現代の課題について、時代を追って考察する。			
<履修条件>			
特になし			
<授業計画>			
第1回 万国福音同盟会と宣教師の来日			
第2回 共同教会の理念と教派形成(1) 長老派と組合派			
第3回 共同教会の理念と教派形成(2) メソジスト派、バプテスト派、その他			
第4回 明治期におけるキリスト教の受容			
第5回 自由民権運動とキリスト教			
第6回 内村鑑三と不敬事件―宗教と教育の衝突			
第7回 海老名弾正と植村正久のキリスト論論争			
第8回 大正期の教会と高倉徳太郎			
第9回 昭和期の学生キリスト教運動と社会的基督教			
第10回 戦時下のキリスト教とナショナリズム（天皇制）			
第11回 日本基督教団の成立			
第12回 戦後のキリスト教とデモクラシー			
第13回 日本基督教団の試練(1) 教派離脱と信仰告白の制定			
第14回 日本基督教団の試練(2) 教団紛争			
第15回 日本伝道の課題―脱宗教的世俗化と世俗的疑似宗教化			
期末試験			
<準備学習等の指示>			
明治以来の日本の歴史を、一般の歴史書に照らして復習しておくとい。			
<テキスト>			
鵜沼裕子『史料による日本キリスト教史』聖学院大学出版社、2018年			
<参考書・参考資料等>			
海老沢有道・大内三郎『日本キリスト教史』日本基督教団出版局、1970年			
土肥昭夫『日本プロテスタント・キリスト教史』新教セミナーブック、1998年			
<学生に対する評価（方法・基準）>			
出席を重んじる。期末試験の結果を見て評価する。			

専門教育科目必修・歴史神学関係		
宗教史Ⅰ	棚村 重行	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 宗教史Ⅱと併せて履修するのが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 宗教史 [新法] 教科に関する専門的事項（宗教史）	
<授業のテーマ> 「世界宗教史入門」。歴史神学の一分野である世界宗教史の研究・理論を学び、世界の諸宗教と文明生活の基礎知識を習得する。		
<到達目標> 学生は、①世界宗教史研究の基礎理論を学ぶ。②世界諸宗教の霊的生活を、各文明史の背景を踏まえ相関的に理解する思考を養う。③日本と世界伝道のために、宗教史の知識をどう活用したらよいかを考える。		
<授業の概要> 学生は配布されたレジメと資料のコピーをもとに講義を聴く。並行して指定されたテキストを読み、講義の内容理解を深める。		
<履修条件> 宗教史Ⅱを併せて履修し、日本と世界宗教の双方の知識を深めることが望ましい。		
<授業計画> 第1回 宗教史を学ぶ意義について 第2回 諸宗教の研究の歴史と研究の方法論の形成。本講義で採用するワック/エリアード複合理論について 第3回 文明史的考察を踏まえた世界諸宗教理解の意義 第4回 国家と宗教との関係に関する諸理論の紹介と意義 第5回 世界の唯一神教（1） ユダヤ教の霊的生活と文明のなかの歴史 第6回 同上（2） キリスト教（a） 正教会とローマ・カトリック教会の霊的生活と文明のなかの歴史 第7回 同上（3） キリスト教（b） プロテスタント諸教会の霊的生活と文明のなかの歴史（ルター派教会；改革派教会；聖公会とメソジスト教会） 第8回 同上（4） イスラム教 イスラム教の諸派の霊的生活と文明のなかの歴史 第9回 世界の多神教（1） ヒンドゥー教の霊的生活と文明のなかの歴史 第10回 同上（2） 南アジア、東アジアの仏教の霊的生活と文明のなかの歴史 第11回 同上（3） 中国の諸宗教の霊的生活と文明のなかの歴史 第12回 同上（4） 朝鮮・韓国の諸宗教の霊的生活と文明のなかの歴史 第13回 同上（5） 日本の諸宗教の霊的生活と文明のなかの歴史（a）：神道と仏教、儒教 第14回 同上（6） 日本の諸宗教の霊的生活と文明のなかの歴史（b）：キリスト教と諸宗教との関係 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 学生は、授業をよく聴き、質問をすること。		
<テキスト> 岸本英夫 『世界の宗教』（原書房、2008）		
<参考書・参考資料等> J. ヴァッハ、渡辺訳 『宗教の比較研究』（京都：法蔵館、1999）		
<学生に対する評価（方法・基準）> ①期末筆記試験を受ける。②到達目標事項の達成度を重視する。		

専門教育科目必修・実践神学関係				
実践神学概論 a	小泉 健	＜担当形態＞ 単独		
前期・2単位	＜登録条件＞ 通年で登録すること			
教職課程における要件・区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 実践神学の四大領域の概略に触れつつ、実践神学的思考について学ぶ。				
＜到達目標＞ 神学の全体構造の中に実践神学を正しく位置づけられるようになること。実践神学の主要なテーマについて、基本的な考え方を身につけること。				
＜授業の概要＞ 前期は実践神学全体を概観した上で、実践神学基礎論としての教会論と説教を扱う。				
＜履修条件＞ 学部最終学年において履修のこと。				
＜授業計画＞ 第1回 神学とは何かを改めて考え、その中での実践神学の位置づけを学ぶ。 第2回 実践神学とは何か（その1）実践神学の歴史を学ぶ。 第3回 実践神学とは何か（その2）「実践」と「神学」との関係を学ぶ。 第4回 実践神学とは何か（その3）現代のさまざまな実践神学の立場を知る。 第5回 実践神学とは何か（その4）まとめとして、実践神学を伝道論として捉えることを学ぶ。 第6回 教会建設論（その1）信仰と救済にとってなぜ教会が必要かを考える。 第7回 教会建設論（その2）さまざまな教会建設論の考え方を知る。 第8回 教会建設論（その3）実践神学基礎論としての教会論を整理する。 第9回 教会建設論（その4）日本において伝道する教会を建設する際の課題を考える。 第10回 説教（その1）説教とは何か 説教の神学 第11回 説教（その2）誰が説教するのか 説教者論 第12回 説教（その3）誰に説教するのか 聴衆論 第13回 説教（その4）どこで説教するのか 説教と礼拝 第14回 説教（その5）何を説教するのか 説教と聖書 第15回 説教（その6）いかに説教するのか 説教と修辞学				
＜準備学習等の指示＞ 教室で配布される資料をていねいに読むこと。				
＜テキスト＞ 必要に応じて教室でプリントを配布する。				
＜参考書・参考資料等＞ 加藤常昭『教会とは何か』東神大パンフレット2 山口隆康『アブラハムと実践神学』東神大パンフレット27 R. ボーレン『神が美しくなられるために』教文館 R. リシャー『説教の神学——キリストのいのちを伝える』教文館 その他については授業中に文献表を配布する。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席態度とレポートによって評価する。共通評価指標（1）の②～④を重視する。				

専門教育科目必修・実践神学関係				
実践神学概論 b	小泉 健	＜担当形態＞ 単独		
後期・2単位	＜登録条件＞ 通年で登録すること			
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 実践神学の四大領域の概略に触れつつ、実践神学的思考について学ぶ。				
＜到達目標＞ 教会で実践され、経験的に知っている行為に対して、神学的に把握し反省するための実践神学的な考え方を身につけること。				
＜授業の概要＞ 実践神学諸科から、とくに礼拝学と牧会学の基礎を扱う。				
＜履修条件＞ 学部最終学年において履修のこと。				
＜授業計画＞ 第1回 礼拝学（その1）「礼拝」の広がり、と、礼拝を礼拝にするものを考える。 第2回 礼拝学（その2）新約聖書における礼拝と1、2世紀の教会の礼拝から学ぶ。 第3回 礼拝学（その3）3、4世紀の教会の礼拝についての重要文献を読む。 第4回 礼拝学（その4）宗教改革における礼拝改革を学ぶ。 第5回 礼拝学（その5）宗教改革以後の教会の礼拝の変遷を学ぶ。 第6回 礼拝学（その6）以上の学びを踏まえて、わたしたちの礼拝を再考する。 第7回 礼拝学（その7）個別のテーマとして、聖礼典の理解と礼拝堂の問題を取り上げる。 第8回 礼拝学（その8）個別のテーマとして、教会暦と主日聖書日課、さらに讃美歌学を取り上げる。 第9回 牧会学（その1）「牧会」とは何かを、聖書と教会の歴史から考える。 第10回 牧会学（その2）20世紀以降の牧会学におけるさまざまな牧会の理解を学ぶ。 第11回 牧会学（その3）牧会の課題について整理する。 第12回 牧会学（その4）特別な牧会の場面（結婚、病、死別）について考察する。 第13回 牧会学（その5）牧会の方法（祈り、指導、訪問、手紙）を考える。 第14回 牧会学（その6）個別のテーマとして、告解と相互牧会を取り上げる。 第15回 牧会学（その7）教会法と戒規を牧会の問題として理解する。				
＜準備学習等の指示＞ 教室で配布される資料をていねいに読むこと。				
＜テキスト＞ 必要に応じて教室でプリントを配布する。				
＜参考書・参考資料等＞ J. F. ホワイト『キリスト教の礼拝』日本基督教団出版局 加藤常昭『慰めのコイノーニア——牧師と信徒が共に学ぶ牧会学』日本キリスト教団出版局 その他については授業中に文献表を配布する。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席態度とレポートによって評価する。共通評価指標（1）の②～④を重視する。				

専門教育科目必修・実践神学関係				
キリスト教教育概論 a	長山 道	＜担当形態＞ 単独		
前期・2単位	＜登録条件＞ 通年登録が望ましい。			
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ キリスト教教育の理論、歴史、諸問題について学ぶ。				
＜到達目標＞ キリスト教教育の特徴、キリスト教教育学の基本的な用語とその意味、キリスト教教育の歴史を理解する。				
＜授業の概要＞ キリスト教教育に関する基礎的な理論および歴史について講義し、現代の教会やキリスト教学校との関連についてディスカッションをしながら考察を深める。				
＜履修条件＞				
＜授業計画＞ 第1回 キリスト教教育とは 第2回 信仰を教えることは可能か 第3回 教師としてのイエス（1）マルコによる福音書、マタイによる福音書 第4回 教師としてのイエス（2）ルカによる福音書、ヨハネによる福音書 第5回 福音伝道とキリスト教教育 第6回 キリスト教教育と道德教育 第7回 原始キリスト教における教育（1）パラドシス 第8回 原始キリスト教における教育（2）ケリュグマとディダケー 第9回 中世におけるキリスト教教育 第10回 宗教改革期におけるキリスト教教育（1）ルター 第11回 宗教改革期におけるキリスト教教育（2）カルヴァン 第12回 ピューリタンの時代におけるキリスト教教育 第13回 カテキズム教育（1）『大教理問答』『小教理問答』 第14回 カテキズム教育（2）『ハイデルベルク信仰問答』 第15回 カテキズム教育（3）『ウェストミンスター小教理問答』				
＜準備学習等の指示＞ 毎回の主題に関する問題意識をもって講義に臨むこと。				
＜テキスト＞ レジュメを配布する。				
＜参考書・参考資料等＞ 講義中に適宜指示する。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 学期末にレポートを課す。				

専門教育科目必修・実践神学関係				
キリスト教教育概論 b	長山 道	＜担当形態＞ 単独		
後期・2単位	＜登録条件＞ 通年登録が望ましい。			
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ キリスト教教育の理論、歴史、諸形態について学ぶ。				
＜到達目標＞ キリスト教教育の特徴、キリスト教教育学の基本的な用語とその意味、キリスト教教育学の基本的な議論を理解する。				
＜授業の概要＞ キリスト教教育に関する基礎的な理論について講義し、現代の教会やキリスト教学校との関連についてディスカッションをしながら考察を深める。				
＜履修条件＞				
＜授業計画＞ 第1回 近代の教育学に見る「キリスト教的」人間観（1）コメニウス 第2回 近代の教育学に見る「キリスト教的」人間観（2）フレーベル 第3回 近代の教育学に見る「キリスト教的」人間観（3）ペスタロッチ 第4回 創造と聖化 第5回 教会学校の歴史 第6回 教会学校の意義 第7回 幼児洗礼 第8回 キリスト教幼児教育 第9回 キリスト教学校 第10回 青少年期のキリスト教教育 第11回 成人のキリスト教教育 第12回 高齢者のキリスト教教育 第13回 カテケーシスから洗礼、信仰告白へ 第14回 礼拝と教育 第15回 家庭におけるキリスト教教育				
＜準備学習等の指示＞ 毎回の主題に関する問題意識をもって講義に臨むこと。				
＜テキスト＞ レジュメを配布する。				
＜参考書・参考資料等＞ NCC 教育部歴史編纂委員会編『日本における教会教育の歩み』教文館、2007年。他は講義中に適宜指示する。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 学期末にレポートを課す。				

専門教育科目選択必修・学部演習				
旧約聖書学部演習 a	田中 光	＜担当形態＞ 単独		
前期・2単位	＜登録条件＞ a, b 両方とも登録することが望ましい			
教職課程における要件・区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 詩編の神学的・実践的解釈				
＜到達目標＞ 詩編の解釈史を把握し、それを踏まえて、今日私たちが教会において詩編を神学的・実践的に解釈する道筋を見出す。				
＜授業の概要＞ 前半では詩編の解釈史を概観的に学び、それを踏まえて更に、今日の教会においてどのような形で詩編の神学的・実践的解釈が可能かを探求する。本授業では特に、エジプト・ハレル（詩 113-118）と律法の詩編（詩 119）に着目し、これらのテキストのまとまりが持つ神学的・実践的意味を理解することに努める。各授業では教員がレジュメを配布するが、回によっては学生の発表が求められる場合もある。教員のレジュメと学生の発表に基づいてディスカッションの時を持つ。				
＜履修条件＞ ヘブライ語の知識があることが望ましい。無い方も歓迎。				
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション&イントロダクション 第2回 詩編解釈の歴史①： 詩編の形成、新約聖書、使徒教父、護教家 第3回 詩編解釈の歴史②： 古代教父 第4回 詩編解釈の歴史③： 宗教改革者、17-20 世紀の解釈者たち 第5回 詩編解釈の歴史④： 現代における詩編解釈の諸相（方法論、死海写本、聖書翻訳他） 第6回 詩編解釈の歴史⑤： 詩編の実践的使用の歴史（典礼、修道院他） 第7回 エジプト・ハレル（詩 113-118）についてのイントロダクション 第8回 詩 113-114 講読 第9回 詩 115-116 講読 第10回 詩 117-118 講読 第11回 律法の詩編（詩 119）についてのイントロダクション 第12回 詩 119:1-40 講読 第13回 詩 119:41-80 講読 第14回 詩 119:81-128 講読 第15回 詩 119:129-176 講読				
＜準備学習等の指示＞ 初回授業にて指示する。				
＜テキスト＞ 特に定めない。授業ごとに配布するレジュメを中心にする。				
＜参考書・参考資料等＞ William L. Holladay, <i>The Psalms Through Three Thousand Years</i> (1996); Susan Gillingham, <i>Psalms Through the Centuries</i> , vol.1 (2008); Nancey deClaissé-Walford et al., <i>The Book of Psalms</i> (2014).				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加度と発表、そして期末のレポートによって評価する。欠席が3分の1を超えた者はレポートを提出できない。				

専門教育科目選択必修・学部演習				
旧約聖書学部演習 b	田中 光	＜担当形態＞ 単独		
後期・2単位	＜登録条件＞ a, b 両方とも登録することが望ましい			
教職課程における要件・区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 聖書学の論文の執筆				
＜到達目標＞ 前期の学びから得たインサイトを用いて自ら見出した課題と取り組み、聖書学の方法論を用いて論文を作成する。				
＜授業の概要＞ タイムテーブルの前半においては、論文執筆の方法等についてのレクチャーがなされる。後半においては、学生による論文発表を行い、担当教員が適宜アドヴァイスする。				
＜履修条件＞ ヒブル語を履修していること。履修中でも可。				
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション&イントロダクション 第2回 聖書学の論文の書き方① 論文を書く際の心得 第3回 聖書学の論文の書き方② 文献の収集と文献の読み方について（図書館ツアー） 第4回 聖書学の論文の書き方③ 本文批評、聖書額の方法論について 第5回 論文執筆演習① 詩編 119 テキストの翻訳 第6回 論文執筆演習② 詩編 119 テキストの翻訳+テキストの解釈（注解書） 第7回 論文執筆演習③ 詩編 119 論文の読解 第8回 学生による発表① 論文の方向性（アウトライン） 第一グループ 第9回 学生による発表② 論文の方向性（アウトライン） 第二グループ 第10回 学生による発表③ 論文の中間報告① 第一グループ 第11回 学生による発表④ 論文の中間報告② 第二グループ 第12回 学生による発表⑤ 論文の中間報告③ 第一グループ 第13回 学生による発表⑥ 論文の中間報告④ 第二グループ 第14回 学生による発表⑦ 論文の中間報告⑤ 第一グループ 第15回 学生による発表⑧ 論文の中間報告⑥ 第二グループ				
＜準備学習等の指示＞ 自分の論文のテーマを常に探究し、発表の準備を事前に行うこと。				
＜テキスト＞ Biblia Hebraica Stuttgartensia, ヘブライ語辞書、その他。				
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で適宜指示する。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加度と発表、そして期末のレポートによって評価する。欠席が3分の1を超えた者はレポートを提出できない。				

専門教育科目選択必修・学部演習				
新約聖書学部演習 a	焼山 満里子	＜担当形態＞ 単独		
前期・2単位	＜登録条件＞			
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 新約聖書学の方法と議論に親しみ新約聖書学の分野で論文を書く準備をする。				
＜到達目標＞ 新約聖書学の方法論を理解する。				
＜授業の概要＞ 論文を読み、釈義をする。				
＜履修条件＞				
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 『パウロの福音宣教と黙示思想』1章 第3回 『パウロの福音宣教と黙示思想』2章 第4回 『パウロの福音宣教と黙示思想』3章 第5回 『パウロの福音宣教と黙示思想』4章 第6回 『パウロの福音宣教と黙示思想』5章 第7回 『パウロの福音宣教と黙示思想』6章 第8回 1テサロニケ1:2-10 釈義ステップ1-3 第9回 1テサロニケ1:2-10 釈義ステップ4-6 第10回 1テサロニケ1:2-10 釈義ステップ7-8 第11回 『イエスの死』1章 第12回 『イエスの死』2章 第13回 『イエスの死』3章 第14回 『これだけは知っておきたい史的イエス』1章 第15回 『これだけは知っておきたい史的イエス』2章 期末レポート				
＜準備学習等の指示＞ 毎回指定されている講読箇所、釈義を十分してから授業に臨むこと。				
＜テキスト＞ 上記3冊、可能ならば入手、あるいは図書館の指定図書を利用する。				
＜参考書・参考資料等＞ 適宜指定する。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 毎回の授業参加と期末レポート				

専門教育科目選択必修・学部演習				
新約聖書学部演習 b	中野 実	＜担当形態＞ 単独		
後期・2単位	＜登録条件＞ 学部4年生			
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 学部論文として釈義レポートを準備するためのクラス				
＜到達目標＞ このクラスを通して、論文の書き方や釈義の方法、手続きを身につけることができる。				
＜授業の概要＞ 論文の書き方を学びつつ、釈義を進めていく。一つの聖書テキストを共同で釈義し、それぞれが論文にまとめていく。				
＜履修条件＞ 新約専攻者のみならず、ほかの学部4年生にも開かれている。				
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 一般的論文、レポートの書き方 第3回 釈義レポートの書き方 第4回 問題発見、問題設定 第5回 自らの問題意識を学問的に表現してみる 第6回 先行研究の発見 第7回 先行研究から学ぶ 第8回 釈義の手続き 第9回 注解書を読む 第10回 研究書を読む 第11回 テキストの選定 第12回 テキストの釈義 第13回 自らのテーゼを発見 第14回 見直し 第15回 まとめ				
＜準備学習等の指示＞とにかくコツコツ聖書テキストや研究書と取り組ながら、自分自身の議論を組み立てることに努める。				
＜テキスト＞中野ほか『新約聖書解釈の手引き』（日本基督教団出版局、2016年）				
＜参考書・参考資料等＞適宜紹介する。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞授業への参加度、努力、その実りとしての釈義レポートを通して総合的に評価する。出席が三分の二に達しない場合は、評価の対象としない。レポートにおいては、適切な方法論に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であることが求められる。				

専門教育科目選択必修・学部演習				
組織神学学部演習 a	須田 拓	＜担当形態＞ 単独		
前期・2単位	＜登録条件＞ 組織神学学部演習 b と通年で履修・登録することを原則とする			
教職課程における要件・区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 卒業論文の作成に向けて、組織神学的に考え叙述する技法を学ぶ。				
＜到達目標＞ 組織神学的に考えることができるようになる。				
＜授業の概要＞ 後期における卒業論文作成の準備				
＜履修条件＞ 学部4年生で卒業を予定している者				
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 卒業論文の主題について 第3回 論文の書き方(1) 論文とは何か 第4回 論文の書き方(2) 論文の構成と書き方 第5回 組織神学の考え方(1) 文章の読解 第6回 組織神学の考え方(2) 内容の検討 第7回 組織神学の考え方(3) 批評とその書き方 第8回 中間総括 第9回 卒業論文の主題と文献について 第10回 組織神学の論じ方(1) 神学的文章の読解 第11回 組織神学の論じ方(2) 神学的文章の検討 第12回 組織神学の論じ方(3) 神学的文章の批評 第13回 卒業論文主題の検討 第14回 卒業論文主題の最終決定 第15回 まとめ				
＜準備学習等の指示＞ 与えられた課題を準備してくること				
＜テキスト＞ 特になし				
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で、必要に応じて指示する。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加状況と学期中の課題によって評価する。				

専門教育科目選択必修・学部演習				
組織神学学部演習 b	須田 拓	＜担当形態＞ 単独		
後期・2単位	＜登録条件＞ 組織神学学部演習 a と通年で履修・登録することを原則とする			
教職課程における要件・区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 学部卒業論文を作成する。				
＜到達目標＞ 学部卒業論文を作成する。				
＜授業の概要＞ 受講者を3つのグループに分け、順に中間発表を重ねながら、卒業論文を作成する。				
＜履修条件＞ 前期と同じ				
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 文献表・主要文献の内容概観の発表（第1グループ・第2グループ前半） 第3回 文献表・主要文献の内容概観の発表（第2グループ後半・第3グループ） ＜第1サイクル＞（1,000字程度を執筆してくる） 第4回 第1グループのメンバー各自の発表 第5回 第2グループのメンバー各自の発表 第6回 第3グループのメンバー各自の発表 ＜第2サイクル＞（2,000字程度を執筆してくる） 第7回 第1グループのメンバー各自の発表 第8回 第2グループのメンバー各自の発表 第9回 第3グループのメンバー各自の発表 ＜第3サイクル＞（3,000字程度を執筆してくる） 第10回 第1グループのメンバー各自の発表 第11回 第2グループのメンバー各自の発表 第12回 第3グループのメンバー各自の発表 ＜第4サイクル＞（4,000字程度を執筆してくる） 第13回 第1グループのメンバー各自の発表 第14回 第2グループのメンバー各自の発表 第15回 第3グループのメンバー各自の発表				
＜準備学習等の指示＞ 論文作成に積極的に取り組むこと				
＜テキスト＞ 特になし				
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で、必要に応じて指示する。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 最終的に提出された卒業論文によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（2）に基づいて評価する。				

専門教育科目選択必修・学部演習				
歴史神学学部演習 a	本城 仰太	＜担当形態＞ 単独		
前期・2単位	＜登録条件＞			
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 歴史神学の学習方法の習得と学部論文作成の手順を学ぶ。				
＜到達目標＞ ①歴史史料の扱い方、読み方を身につける ②歴史神学の方法論（特に史料を用いての論文の書き方）を身につける				
＜授業の概要＞ 歴史神学の学問研究のために必要な基礎概念、史料の扱い方、論文作成の方法等を学ぶ。テキストを割り当てて発表して内容をつかんでいく。また、その過程で自分のテーマを設定し、史料を集め、史料を読み、学部論文作成のための素材を整えていく。				
＜履修条件＞ 特になし				
＜授業計画＞ 第1回 ガイダンス、テキスト1章「テーマ設定」 第2回 テキスト2章「一次史料」と「二次史料」 第3回 テキスト3章「史料の探し方」 第4回 「テーマ」の発表 第5回 テキスト4章「史料のまとめ方」 第6回 「一次史料」の発表① 第7回 「一次史料」の発表② 第8回 テキスト5章「史料の批判」 第9回 「二次史料」の発表① 第10回 「二次史料」の発表② 第11回 テキスト6章「アウトライン」 第12回 「アウトライン」の発表 第13回 テキスト7章「書く」 第14回 テキスト8章「注と参考文献」 第15回 まとめ				
＜準備学習等の指示＞ 学部論文作成のための素材を整えていくことが目的であるため、授業で指示されたことをこなしていくこと。				
＜テキスト＞ 澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫153）。このテキストは、各自購入しておくこと。				
＜参考書・参考資料等＞ その都度示す。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表とクラスでの討議の貢献度、レポート等によって総合的に評価する。				

専門教育科目選択必修・学部演習				
歴史神学学部演習 b	本城 仰太	＜担当形態＞ 単独		
後期・2単位	＜登録条件＞			
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 歴史神学の学部論文作成と、各個教会史を批判的に読み解く訓練をする。				
＜到達目標＞ ①歴史神学の方法論（特に史料を用いての論文の書き方）を身につける ②各個教会史などの歴史資料を批判的に評価できるようにする				
＜授業の概要＞ 前期で行った内容（テーマ設定、一次史料読解、二次史料読解、アウトライン作成）を踏まえ、実際に学部論文を作成していく。また、将来牧師として教会史を執筆することを踏まえ、各個教会史を読み、論評することを行う。				
＜履修条件＞ 特になし				
＜授業計画＞ 第1回 ガイダンス、学部論文と教会史について 第2回 学部論文の中間発表① 第3回 学部論文の中間発表② 第4回 学部論文の中間発表③ 第5回 教会史作成のための史料 第6回 教会史と記念誌の論評 第7回 教会史の発表① 第8回 教会史の発表② 第9回 教会史の発表③ 第10回 批評の仕方 第11回 学部論文の発表① 第12回 学部論文の発表② 第13回 学部論文の発表③ 第14回 ディスカッション 第15回 まとめ				
＜準備学習等の指示＞ 学部論文作成が目的であるため、授業で指示されたことをこなしていくこと。				
＜テキスト＞ 澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫153）。このテキストは、各自購入しておくこと。				
＜参考書・参考資料等＞ その都度示す。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表とクラスでの討議の貢献度、レポート等によって総合的に評価する。				

専門教育科目選択必修・神学書講読				
英語神学書講読・聖書Ⅰ	焼山 満里子	＜担当形態＞ 単独		
前期・2単位	＜登録条件＞			
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 新約聖書学の研究書を講読し英語講読の力を養う。				
＜到達目標＞ 新約聖書学の研究書を読めるようになる。				
＜授業の概要＞ 講読をすすめる。				
＜履修条件＞ なし				
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション（英語辞書持参のこと） 第2回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.1 第3回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.2 第4回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.3 第5回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.4 第6回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.5 第7回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.6 第8回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.7 第9回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.8 第10回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.9 第11回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.10 第12回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.11 第13回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.12 第14回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.13 第15回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.14 進度は受講者の関心によって適宜調整する。				
＜準備学習等の指示＞ 毎回講読する箇所を訳してから出席すること。				
＜テキスト＞ Victor Furnish, The Theology of the First Letter to the Corinthians, Cambridge University Press, 1999.				
＜参考書・参考資料等＞ 適宜指示する。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 毎回の授業参加				

専門教育科目選択必修・神学書講読				
英語神学書講読・組織Ⅰ	神代 真砂実	＜担当形態＞ 単独		
前期・2単位	＜登録条件＞ 特になし（学期毎で履修可）。			
教職課程における要件・区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 英語による組織神学関係の文書を講読することを通して、英語の専門書をひもといていくための能力を高める。併せて当該文書が扱う主題についての理解を深める。Ⅰでは、比較的平易なものを読む。				
＜到達目標＞ ①一般的な英語力の向上、②組織神学にかかわる英語の語彙の習得、③テキストの内容について自分の言葉で説明出来るようになること。				
＜授業の概要＞ アメリカの組織神学者であるR・ジェンソンの晩年の講演に基づく組織神学概説を読む。1センテンスずつあてて、訳してもらう。適宜、内容について解説していく。				
＜履修条件＞ 英語Ⅱを履修済みか、それと同等以上の学力を有していること。				
＜授業計画＞ Robert W. Jenson, <i>A Theology in Outline</i> (New York: Oxford University Press, 2016)から、第4章（“The Triune God”）を読む。 第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト、pp. 40-41. 第3回 同、pp. 41-42. 第4回 同、pp. 42-43. 第5回 同、pp. 43-44. 第6回 同、pp. 44-45. 第7回 同、pp. 45-46. 第8回 同、pp. 46-47. 第9回 同、pp. 47-48. 第10回 同、pp. 48-49. 第11回 同、pp. 49-50. 第12回 同、pp. 50-51. 第13回 同、p. 51. 第14回 文法面についてのまとめ 第15回 内容面についてのまとめ				
＜準備学習等の指示＞ 予習してくること。（英和辞典は紙ベースの中辞典を使うことを強く勧める。）				
＜テキスト＞ 担当者が用意するプリント。				
＜参考書・参考資料等＞ 特になし。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業中の和訳の出来と小テストによる。				

専門教育科目選択必修・神学書講読				
英語神学書講読・組織Ⅱ	神代 真砂実	＜担当形態＞ 単独		
後期・2単位	＜登録条件＞ 特になし（学期毎で履修可）。			
教職課程における要件・区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 英語による組織神学関係の文書を講読することを通して、英語の専門書をひもといていくための能力を高める。併せて当該文書が扱う主題についての理解を深める。Ⅱでは、Ⅰよりも高度なものを読む。				
＜到達目標＞ ①一般的な英語力の向上、②組織神学にかかわる英語の語彙の習得、③（より高度な）テキストの内容について自分の言葉で説明出来るようになること。				
＜授業の概要＞ 組織神学者による（説教のための）聖書の神学的釈義の文章を読む。1 センテンスずつあてて、訳してもらう。適宜、内容について解説していく。				
＜履修条件＞ 英語Ⅱを履修済みか、それと同等以上の学力を有していること。				
＜授業計画＞ <i>The Lectionary Commentary: Theological Exegesis for Sunday's Texts</i> (three volumes)から、いくつかのテキストを読む。 第1回 オリエンテーション 第2回 (Vol. 1) Deuteronomy 5:12-15 by Robert W. Jenson, pp. 128-129. 第3回 同、pp. 129-130. 第4回 同、pp. 130-131. 第5回 (Vol. 1) Acts 5:27-32 by Colin E. Gunton, pp. 550-551. 第6回 同、pp. 551-552. 第7回 (Vol. 2) Romans 5:1-11 by George Hunsinger, pp. 41-42. 第8回 同、pp. 42-43. 第9回 同、pp. 43-44. 第10回 同、pp. 44-45. 第11回 (Vol. 3) John 14:1-14 by Gabriel Fackre, pp. 547-548. 第12回 同、pp. 548-549. 第13回 同、pp. 549-550. 第14回 同、pp. 550-551. 第15回 文法面および内容面についてのまとめ				
＜準備学習等の指示＞ 予習してくること。（英和辞典は紙ベースの中辞典を使うことを強く勧める。）				
＜テキスト＞ 担当者が用意するプリント。				
＜参考書・参考資料等＞ 特になし。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業中の和訳の出来と小テストによる。				

専門教育科目選択必修・神学書講読				
独語神学書講読・組織Ⅰ	芳賀 力	＜担当形態＞ 単独		
前期・2単位	＜登録条件＞ 学期ごとの登録も可			
教職課程における要件・区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 終末論的希望をめぐる宗教改革と現代の神学との対話を試みる。				
＜到達目標＞ ドイツ語の専門用語に慣れ親しみつつ、論じられている神学的事柄そのものを正確に把握する。				
＜授業の概要＞ テキストを音読し、順番に訳していく。				
＜履修条件＞ ドイツ語の基本文法を一応終えていること。				
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 G.Plasger, Eschatologische Erkundungen, SS.9-10. 第3回 G.Plasger, Eschatologische Erkundungen, SS.11-12. 第4回 G.Plasger, Eschatologische Erkundungen, SS.13-14. 第5回 G.Plasger, Eschatologische Erkundungen, SS.15-16. 第6回 G.Plasger, Eschatologische Erkundungen, SS.17-18. 第7回 G.Plasger, Eschatologische Erkundungen, SS.19-21. 第8回 M.Freudenberg, Letzte Dinge im Leben und in der Theologie Johannes Calvins, SS.23-24. 第9回 M.Freudenberg, Letzte Dinge im Leben und in der Theologie Johannes Calvins, SS.25-26. 第10回 M.Freudenberg, Letzte Dinge im Leben und in der Theologie Johannes Calvins, SS.27-28. 第11回 M.Freudenberg, Letzte Dinge im Leben und in der Theologie Johannes Calvins, SS.29-30. 第12回 M.Freudenberg, Letzte Dinge im Leben und in der Theologie Johannes Calvins, SS.31-32. 第13回 M.Freudenberg, Letzte Dinge im Leben und in der Theologie Johannes Calvins, SS.33-34. 第14回 M.Freudenberg, Letzte Dinge im Leben und in der Theologie Johannes Calvins, SS.35-37. 第15回 M.Beintker, Die Auferstehung von den Toten und die eschatologische Naherwartung, SS.39-40.				
＜準備学習等の指示＞ 辞書を小まめによく引いて、不明な単語がないようにしておくこと。				
＜テキスト＞ M.Freudenberg(Hrsg.), Christliche Hoffnung im Horizont der reformierten Theologie, Solingen:Foedus-verlag, 2017.				
＜参考書・参考資料等＞ 特になし。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席と授業での読解作業を評価する。				

専門教育科目選択必修・神学書講読				
独語神学書講読・組織Ⅱ	芳賀 力	＜担当形態＞ 単独		
後期・2単位	＜登録条件＞ 学期ごとの登録も可			
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 終末論的希望をめぐる宗教改革と現代の神学との対話を試みる。				
＜到達目標＞ ドイツ語の専門用語に慣れ親しみつつ、論じられている神学的事柄そのものを正確に把握する。				
＜授業の概要＞ テキストを音読し、順番に訳していく。				
＜履修条件＞ ドイツ語の基本文法を一応終えていること。				
＜授業計画＞ 第1回 M.Beintker, Die Auferstehung von den Toten und die eschatologische Naherwartung, SS.41-42. 第2回 M.Beintker, Die Auferstehung von den Toten und die eschatologische Naherwartung, SS.43-44. 第3回 M.Beintker, Die Auferstehung von den Toten und die eschatologische Naherwartung, SS.45-46. 第4回 M.Beintker, Die Auferstehung von den Toten und die eschatologische Naherwartung, SS.47-48. 第5回 M.Beintker, Die Auferstehung von den Toten und die eschatologische Naherwartung, SS.49-50. 第6回 M.Beintker, Die Auferstehung von den Toten und die eschatologische Naherwartung, SS.51-52. 第7回 M.Beintker, Die Auferstehung von den Toten und die eschatologische Naherwartung, SS.53-54. 第8回 M.Beintker, Die Auferstehung von den Toten und die eschatologische Naherwartung, SS.55-56. 第9回 M.Beintker, Die Auferstehung von den Toten und die eschatologische Naherwartung, SS.57-59. 第10回 G.Plasger, Apokalyptik und Eschatologie nach K.Barth und J.Moltmann, SS.61-63. 第11回 G.Plasger, Apokalyptik und Eschatologie nach K.Barth und J.Moltmann, SS.64-66. 第12回 G.Plasger, Apokalyptik und Eschatologie nach K.Barth und J.Moltmann, SS.67-69. 第13回 G.Plasger, Apokalyptik und Eschatologie nach K.Barth und J.Moltmann, SS.70-72. 第14回 G.Plasger, Apokalyptik und Eschatologie nach K.Barth und J.Moltmann, SS.73-75. 第15回 G.Plasger, Apokalyptik und Eschatologie nach K.Barth und J.Moltmann, SS.76-77.				
＜準備学習等の指示＞ 辞書を小まめによく引いて、不明な単語がないようにしておくこと。				
＜テキスト＞ M.Freudenberg(Hrsg.), Christliche Hoffnung im Horizont der reformierten Theologie, Solingen:Foedus-verlag, 2017.				
＜参考書・参考資料等＞ 特になし。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席と授業での読解作業を評価する。				

専門教育科目選択必修・神学書講読				
英語神学書講読・組織歴史Ⅰ	本城 仰太	＜担当形態＞ 単独		
前期・２単位	＜登録条件＞ 特になし。学期毎の履修可			
教職課程における要件・区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 英語の神学書を読んでいくための基本的な力を養う。合わせて当該文献の内容についての理解を深める。				
＜到達目標＞ 英語の神学書を神学的に読むことができるようにする。それに付随する神学的な用語・人物・書名等を調べることができるようにする。				
＜授業の概要＞ ハルナックの古典的な説を読み、使徒信条成立史の理解を深める。１センテンスずつ訳してもらいながら、必要事項は適宜、解説しながらゆっくり読んでいく。				
＜履修条件＞ 英語Ⅱ履修済みか、それと同程度の英語力を有していること。				
＜授業計画＞ 第１回 使徒信条成立史の概要説明、テキストの説明（A.v.Harnack, <i>The Apostles' Creed</i>, Tr. by Stewart Means revised and edited by Tohmas Bailey Saunders, London, Adam and Charles Black, 1901（復刻版）） 第２回 テキスト pp.1-5 第３回 テキスト pp.5-12 第４回 テキスト pp.13-19 第５回 テキスト pp.19-24 第６回 テキスト pp.25-31 第７回 テキスト pp.31-38 第８回 テキスト pp.38-45 第９回 テキスト pp.45-52 第１０回 テキスト pp.52-58 第１１回 テキスト pp.58-65 第１２回 テキスト pp.65-71 第１３回 テキスト pp.71-77 第１４回 テキスト pp.77-83 第１５回 テキスト pp.84-88				
＜準備学習等の指示＞ 予習をしていくこと。				
＜テキスト＞ 担当者が用意するプリント。				
＜参考書・参考資料等＞ 特になし。必要ならば英和辞典、文法解説書を準備すること。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席を前提として、授業での訳、授業への参加態度で総合的に評価する。				

専門教育科目選択必修・神学書講読				
英語神学書講読・組織歴史Ⅱ	本城 仰太	＜担当形態＞ 単独		
後期・2単位	＜登録条件＞ 特になし。学期毎の履修可			
教職課程における要件・区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 英語の神学書を読んでいくための基本的な力を養う。合わせて当該文献の内容についての理解を深める。				
＜到達目標＞ 英語の神学書を神学的に読むことができるようにする。それに付随する神学的な用語・人物・書名等を調べることができるようにする。				
＜授業の概要＞ 最近の二種類の説を読み、使徒信条成立史の理解を深める。1 センテンスずつ訳してもらいながら、必要事項は適宜、解説しながらゆっくり読んでいく。				
＜履修条件＞ 英語Ⅱ履修済みか、それと同程度の英語力を有していること。				
＜授業計画＞ 第1回 使徒信条成立史の概要説明、テキストの説明（①C.P.Arand, J.A.Nestingen, R.Kolb, <i>The Lutheran confessions: history and theology of The book of Concord</i>, Minneapolis: Fortress Press, 2012 の Chapter 1 (A History of the Ancient Creedal Texts) の pp.17-25、②Edited, annotated, and translated by W.Kinzig, <i>Faith in Formulae: A Collection of Early-Christian Creeds and Creed-related Texts</i>. 4 vols., New York: Oxford University Press. 2017. の vol.1 の pp.1-18) 第2回 ①の pp.17-19 第3回 ①の pp.19-21 第4回 ①の pp.21-23 第5回 ①の pp.23-25 第6回 ②の pp.1-2 第7回 ②の pp.3-4 第8回 ②の pp.5-7 第9回 ②の pp.7-8 第10回 ②の pp.8-9 第11回 ②の pp.9-10 第12回 ②の pp.11-13 第13回 ②の pp.13-15 第14回 ②の pp.15-17 第15回 ②の pp.17-18				
＜準備学習等の指示＞ 予習をしていくこと。				
＜テキスト＞ 担当者が用意するプリント。				
＜参考書・参考資料等＞ 特になし。必要ならば英和辞典、文法解説書を準備すること。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席を前提として、授業での訳、授業への参加態度で総合的に評価する。				

専門教育科目選択・聖書神学関係				
旧約聖書神学Ⅳ	左近 豊	＜担当形態＞ 単独		
後期・2単位	＜登録条件＞			
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 旧約聖書に見出される神学思想の現代的意義について考察する。				
＜到達目標＞ 特に旧約聖書の「嘆き」に注目し、教会の礼拝、牧会、祈り、靈的生活において旧約聖書神学的視座に立って思索できるようになること目的とする。				
＜授業の概要＞ 災害や危難に直面した地域に建てられている教会の「とりなし祈り」の務めについて、旧約聖書の詩人たちの祈りに学ぶ。危機の時代に発せられた言葉として旧約詩編、エレミヤ書、哀歌等を取り上げ、参照すべき文献を精読し、また聖書テキストを文芸学的手法を用いて分析し、その様式や語り口の特徴を理解し、現代の危機に向けて教会が語るべき言葉、神に訴えるべき「嘆き」の言葉について探求する。				
＜履修条件＞				
＜授業計画＞ 第1回 序 課題の設定：現代の教会に仕える私たちが、旧約聖書に問い、また逆に問われている問題、特に「嘆き」に注目し、授業全体の課題を設定する 第2回 旧約聖書と現代（1）：現代を旧約聖書神学的視点から考察する。 第3回 旧約聖書と現代（2）：現代日本を旧約聖書神学的視点から考察する 第4回 証言としての旧約聖書：旧約聖書の証言性に注目し、「嘆き」を通して証しされる神、信仰共同体、歴史について考察する 第5回 聖書における嘆きの神学的考察の可能性を探る 第6回 聖書における崩壊期の思想について 第7回 日本の靈的生活における悲哀の思想について 第8回 旧約聖書 嘆きの詩編（1）：その様式と内容について考察する 第9回 旧約聖書 嘆きの詩編（2）：「嘆きの詩編」の神学的主題について考察する 第10回 旧約聖書 エレミヤ書：「エレミヤ書」の嘆きの様式と内容について考察する 第11回 旧約聖書 哀歌（1）：「哀歌」の様式と内容について考察する 第12回 旧約聖書 哀歌（2）：「哀歌」の神学的主題について考察する 第13回 信仰共同体の歴史における嘆き：影響史的視点から哀歌解釈について考察する 第14回 キリストの受難における嘆き：嘆きの礼拝学的意味を考察する 第15回 現代の嘆きの詩：現代における旧約詩編の展開例として数名の信仰詩人の詩を取り上げて考察する				
＜準備学習等の指示＞ 各授業で挙げられる参考文献に事前に目を通しておくこと				
＜テキスト＞ ・聖書 ・『3・11以降の世界と聖書』（日本基督教団出版局、2016年） ・『現代聖書注解 哀歌』（日本基督教団出版局、2013年） その他授業の中で指示する。				
＜参考書・参考資料等＞ 各回レジュメに参考文献を挙げる。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業参加（発題・コメントシート） 60% 期末レポート 40%				

専門教育科目選択（専攻必修）・聖書神学関係				
ヒブル語Ⅰ（1,2）	本間 敏雄	＜担当形態＞ 単独		
前期・4単位	＜登録条件＞ 通年の登録が望ましい。後期登録は前期単位取得者。			
教職課程における要件・区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 聖書ヒブル語の基礎文法を学ぶ。				
＜到達目標＞ 平易な聖書ヒブル語本文を読み、理解することができる。				
＜授業の概要＞ 基礎文法の説明、練習問題、小テスト、マソラ本文の入門的事柄。				
＜履修条件＞ 単位取得者は継続して後期（Ⅱ）も履修すること。原則として学部4年生。旧約専攻者は必修。				
＜授業計画＞ 第1回 1課 ヒブル語とは、文字（Alphabet）、書き方 第2回 1課 写字練習、写本文字(Codex Leningradsensis) 第3回 2課 母音記号（Vowel-signs） 第4回 3, 4課 音節、Shewa、母音文字、Mappiq 第5回 5, 6課 Dagesh、Rafe、母音の分類と変化 第6回 7, 8課 喉音、アクセント等諸記号、Ketib・Qere 第7回 9課 定冠詞、形容詞（1）、接続詞（Conjunction） 第8回 9課（2） 第9回 10課 人称・指示代名詞（Pronoun）、関係代名詞（1）、疑問詞 第10回 11課 前置詞（Preposition）、目的辞（nota accusativi） 第11回 11課（2）人称代名詞語尾（Suffix）（1）：前置詞、目的辞付加形 第12回 12課 動詞：完了態（Perfect） 第13回 13課 未完了態（Imperfect） 第14回 14課 願望形（Jussive、Cohortative） 継続ウェアウ（Waw Consecutive）、従属ウェアウ 第15回 14課（2） 第16回 15課 命令形（Imperative）、不定詞（Infinitive） 第17回 15課（2）分詞（Participle） 第18回 16課 状態動詞 第19回 17課 名詞：語形変化、分類、独立形、合成形（Construct state） 第20回 17課（2）合成形、形容詞（2） 第21回 18課 名詞の変化（第一類）、不規則変化名詞 第22回 18課（2） 第23回 19課 名詞の変化（第二類）、副詞と形成接辞、所有 第24回 20課 名詞の変化（第三、第四、第五類）、名詞形成と接辞 第25回 21課 人称代名詞語尾（2）-Ⅰ：名詞の～ 第26回 21課Ⅰ（2） 第27回 21課 人称代名詞語尾（2）-Ⅱ：動詞の～ 第28回 21課Ⅱ（2） 第29回 全体復習 第30回 総まとめ 定期試験				
＜準備学習等の指示＞ 予習大切。				
＜テキスト＞ 「ヒブル語入門」（改訂増補版 左近/本間）				
＜参考書・参考資料等＞ J.Weingreen, A Practical Grammar for Classical Hebrew (Clarendon Press, Oxford)				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 小テスト、筆記試験で評価する。				

専門教育科目選択（専攻必修）・聖書神学関係				
ヒブル語Ⅱ	本間 敏雄	＜担当形態＞ 単独		
後期・2単位	＜登録条件＞ 通年の登録が望ましい。後期登録は前期単位取得者。			
教職課程における要件・区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 聖書ヒブル語の基礎文法を学ぶ。				
＜到達目標＞ 平易な聖書ヒブル語本文を読み、理解することができる。				
＜授業の概要＞ 基礎文法の説明、練習問題、小テスト、マソラ本文の入門的事柄。				
＜履修条件＞ ヒブル語Ⅰ単位取得者。原則として学部4年生。旧約専攻者は必修。				
＜授業計画＞ 前期より継続 第1回 22課 動詞の語幹、基本語幹：Qal、Nifal 第2回 23課 強意語幹：Piel、Pual、Hithpael 第3回 23課（2） 第4回 24課 使役語幹：Hifil、Hofal 第5回 24課（2） 第6回 25課 不規則動詞：Pe 喉音動詞 第7回 26課 Ayin 喉音、Pe 喉音動詞、関係代名詞（2） 第8回 27課 二重 Ayin 動詞、二根字動詞 第9回 28課 数詞、年齢表記 第10回 29課 弱 Pe 動詞（1）：Pe Alef、Pe Nun 動詞 第11回 29課（2） 第12回 30課 弱 Pe 動詞：Pe Waw、Pe Yod 動詞30課 第13回 31課 弱 Lamed 動詞：Lamed Alef、Lamed He 動詞 第14回 32課 二重弱動詞 第15回 総まとめ 定期試験				
＜準備学習等の指示＞ 予習大切。				
＜テキスト＞ 「ヒブル語入門」（改訂増補版 左近／本間）				
＜参考書・参考資料等＞ J.Weingreen, A Practical Grammar for Classicak Hebrew (Clarendon Press, Oxford)				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 小テスト、筆記試験で評価する。				

専門教育科目選択・聖書神学関係				
イスラエル古代史	田中 光	＜担当形態＞ 単独		
後期・2単位	＜登録条件＞ 特になし			
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 旧約聖書に反映されたイスラエルの民の歴史の探求				
＜到達目標＞ 上記の歴史を概観的に学ぶことで、旧約聖書の背景となっている歴史を知識として身につけること。				
＜授業の概要＞ 担当教員の作成したレジュメに基いて講義を行うが、同時に学生も事前準備と担当者による発表によって授業に積極的に参加していただく（下記参照）。				
＜履修条件＞ 日本基督教団の補教師試験を受験する者で、聖書通論2旧約時代史を履修していない者は履修すること。				
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 聖書時代以前の古代オリエント世界とパレスチナ地方の地理 第3回 カナン定着以前の時代：族長時代 第4回 出エジプト 第5回 カナン定着 第6回 統一王国の成立と分裂 第7回 北王国の歴史：イエフ王朝まで 第8回 北王国の滅亡と南ユダ王国の歴史① 第9回 南ユダ王国の歴史② 第10回 バビロン捕囚とベルシャ時代① 第11回 バビロン捕囚とベルシャ時代②：預言者から見た捕囚 第12回 ヘレニズム時代 第13回 ローマ時代 第14回 まとめ＋中近東文化センター見学（予定）or 死海写本について 第15回 知識の確認 定期試験				
＜準備学習等の指示＞ 学生はテキスト（以下参照）を事前に読んだ上で授業に臨むこと。それと共に、各回に担当者を決め、各回の講義に関連する地図を、「参考書」の項目に挙げた書物からコピーし、短い解説をしていただく（5－10分程度）。				
＜テキスト＞ 基本的には、樋口進『よくわかる旧約聖書の歴史』教団出版局、を定めるが、より詳細で広範な学びを志す学生には、以下の二冊をお勧めする。マルティン・メツガー（山我哲雄訳）『古代イスラエル史』新地書房、P.K.マッカーター・ジュニア他（池田裕、有馬七郎訳）『最新・古代イスラエル史』ミルトス。				
＜参考書・参考資料等＞ テキストの他に参考にすべき書物は適宜レジュメの中で指示する。各回の地図に基づいた発表のために、以下の書物を用いると良い。バリー・J・バイツェル（船本弘毅監修、山崎正浩他訳）『地図と聖書で読む聖書大百科』。他に、地図を用いた発表のために以下の書物を用いても良い。Adrian Curtis, <i>Oxford Bible Atlas</i> , Oxford University Press; Paul H. Wright, <i>Rose Then and Now Bible Atlas</i> , Rose Publishing.				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業のための準備の度合い、各回の発表、定期試験によって評価を行う。				

専門教育科目選択（専攻必修）・聖書神学関係				
新約原典講読Ⅰ	三永 旨従	＜担当形態＞ 単独		
前期・2単位	＜登録条件＞			
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 編集史批判の立場から共観福音書の各文書の特徴を扱う。				
＜到達目標＞ 編集史を確立したといわれる小論文を読み、学問的傾向を理解する。				
＜授業の概要＞ 新約聖書における編集史批判の重要性を示した文献を読んだ後、各文書の文体的特徴及び文法を重視しつつ、講読の基礎を学ぶ。				
＜履修条件＞ ギリシャ語1、2を修得済みの者				
＜授業計画＞ 第1回 辞書、コンコーダンスの用法について 第2回 “The Stilling of The Storm in Matthew” 講読 P.52-54 第3回 “The Stilling of The Storm in Matthew” 講読 P.54-57 第4回 「嵐を鎮める」読解（マルコ） 第5回 「嵐を鎮める」読解（マタイ） 第6回 「嵐を鎮める」読解（ルカ） 第7回 「ゲッセマネの祈り」読解（マルコ） 第8回 「ゲッセマネの祈り」読解（マタイ） 第9回 「ゲッセマネの祈り」読解（ルカ） 第10回 「十字架」読解（マルコ） 第11回 「十字架」読解（マタイ） 第12回 「十字架」読解（ルカ） 第13回 「ガリラヤ宣教」読解（マルコ） 第14回 「ガリラヤ宣教」読解（マタイ） 第15回 「ガリラヤ宣教」読解（ルカ） 定期試験				
＜準備学習等の指示＞ 該当箇所に関して必ず辞書、コンコーダンス等で予習してクラスに出席。				
＜テキスト＞ ・“The Stilling of The Storm in Matthew” G. Bornkamm in <u>Tradition & Interpretation in Matthew</u> , G. Bornkamm, G. Barth, H.J. Held (1960) ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE (27版) に基づいた対観福音書（授業にて紹介） ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。）				
＜参考書・参考資料等＞ ギリシャ語ベースで執筆された各福音書の注解書				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ クラスへの参加あるいは試験による評価				

専門教育科目選択・聖書神学関係				
新約原典講読Ⅱ	三永 旨従	＜担当形態＞ 単独		
後期・２単位	＜登録条件＞			
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 前期に学んだ共観福音書の各文書の文体的特徴をふまえた上で、さらに各文書をギリシャ語で読むことの意味を問う。				
＜到達目標＞ 具体的なテキストにあたり、原典の読解力をつける。				
＜授業の概要＞ 前期とは別の聖書箇所における各文書の文体的特徴及び、文法を重視しながら理解を深める。				
＜履修条件＞ ギリシャ語１、２を修得済みの者				
＜授業計画＞ 第１回 「盲人の癒し」読解（マルコ） 第２回 「盲人の癒し」読解（マタイ） 第３回 「盲人の癒し」読解（ルカ） 第４回 「悪霊追放」読解（マルコ） 第５回 「悪霊追放」読解（マタイ） 第６回 「悪霊追放」読解（ルカ） 第７回 「山上の変貌」読解（マルコ） 第８回 「山上の変貌」読解（マタイ） 第９回 「山上の変貌」読解（ルカ） 第１０回 「エルサレム入城」読解（マルコ） 第１１回 「エルサレム入城」読解（マタイ） 第１２回 「エルサレム入城」読解（ルカ） 第１３回 「復活の言及箇所」読解（マルコ） 第１４回 「復活顕現」読解（マタイ） 第１５回 「復活顕現」読解（ルカ） 定期試験				
＜準備学習等の指示＞ 該当箇所に関して必ず辞書、コンコーダンス等で予習してクラスに出席。				
＜テキスト＞ ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE（27版）に基づいた対観福音書 ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。）				
＜参考書・参考資料等＞ ギリシャ語ベースで執筆された各福音書の注解書				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ クラスへの参加あるいは試験による評価				

専門教育科目選択・歴史神学関係				
宗教史Ⅱ	棚村 重行	＜担当形態＞ 単独		
後期・2単位	＜登録条件＞ 宗教史Ⅰを履修していることが望ましい。			
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）			
	＜科目＞ 〔旧法〕教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） 〔新法〕教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） ＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 〔旧法〕宗教史 〔新法〕教科に関する専門的事項（宗教史）			
＜授業のテーマ＞ 東アジア文明と諸宗教の伝播の歴史のなかで、日本の諸宗教の特質を理解し、その上でキリスト教伝道と教会形成の課題を考える。				
＜到達目標＞ ①各講義には指定テキストを予習のうえで参加し、日本の諸宗教の霊的生活の特徴を把握し、②日本におけるキリスト教、とくに福音主義信仰の伝道と教会形成の課題を各自が理解する。				
＜授業の概要＞ ①講義とテキストにより、東アジアと日本文明史の流れを踏まえし、②アジアの諸宗教の伝達と定着のあり方を理解し、③キリスト教、とくに福音主義の信仰の伝達と教会形成の課題を考察する。				
＜履修条件＞ 宗教史Ⅰ（世界宗教史）を予め履修していることが望ましい。				
＜授業計画＞ 第1回：講義の紹介と序論—宗教とは何か；宗教史の考察の視点とは。 第2回：日本の精神風土と日本宗教の問題（テキスト 一） 第3回：日本の神道：（1）（テキスト 二の1～3） 第4回：日本の神道：（2）（テキスト 二の4～7） 第5回：中国宗教の受容（テキスト 三） 第6回：日本仏教の展開（1）（テキスト 四のⅠとⅡ） 第7回：日本仏教の展開（2）（テキスト 四のⅢ） 第8回：日本仏教の展開（3）（テキスト 四のⅣ） 第9回：キリスト教の伝播（1）（テキスト 五の1～5） 第10回：キリスト教の伝播（2）（テキスト 五の6～8） 第11回：近代の開幕と新宗教運動（1）（テキスト 六の1～2） 第12回：近代の開幕と新宗教運動（2）（テキスト 六の3～4） 第13回：現代の新宗教（テキスト 七） 第14回：東アジアと日本の諸宗教：福音主義信仰の伝道と教会形成の課題 第15回：まとめ				
＜準備学習等の指示＞ 授業の前には、必ずテキストの該当箇所を予習して臨むこと。				
＜テキスト＞ 堀一郎編 『日本の宗教』（原書房）				
＜参考書・参考資料等＞ J. ヴァッハ、渡辺訳 『宗教の比較研究』（京都：法蔵館、1999）；他は、授業開始時に紹介する。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ ①講義の前には指定テキストを予習して臨むこと；②授業の出席も重視し、期末試験の結果と総合して判定する。				

専門教育科目選択・実践神学関係				
教会実習Ⅰ	ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独		
前期・2単位	＜登録条件＞			
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ セミオティクスとパストラル・ケア				
＜到達目標＞ 象徴学；記号論を通して、学生は自らのアイデンティティをより理解し、又、シンボルを理解することによって、キリスト者を牧会的に助けることができるように成長する。				
＜授業の概要＞ 宗教改革以前、キリスト者は宗教的シンボルを理解し、そのシンボルを通して神との関係や、教会との関係を知ろうとした。しかし、500年前から、プロテスタントの信者は偶像礼拝を避けるため、シンボルから離れてきた。対照的に、正教会とカトリック教会はシンボルを持っているために、自らの信仰との関係がより理解されている側面がある。牧会的な立場から考えると、プロテスタントの信者は神を、愛してくださる親として理解することが難しく、又、イエスを友として理解することも難しくなっていると言える。愛に基づく神や教会との関係は学問的、神学的説明に捉えられる傾向がある。シンボルの健全的な理解により、神を父として、又、教会を母として理解することが可能になり、又、堅固な神学的土台の上に、セミオティクス（象徴学；記号論）を通して自らの信仰を理解しようとするキリスト者に魂の牧会ケアを与えることを学びとする。				
＜履修条件＞ 履修登録者が4人に満たない場合は、閉講となる可能性があります。				
＜授業計画＞ 1回目 オリエンテーション 2回目 現代的シンボル 3回目 世俗的シンボル 4回目 プロテスタントのシンボル 5回目 ユダヤ教のシンボル 6回目 正教会のイコン 7回目 カトリックのシンボル 8回目 動物のシンボリック役割 9回目 キリスト者のファッション 10回目 キリスト者の生活 11回目 学生プレゼンテーション 12回目 学生プレゼンテーション 13回目 学生プレゼンテーション 14回目 学生プレゼンテーション 15回目 最終評価				
＜準備学習等の指示＞ 周りの環境のシンボルを熟考する。				
＜テキスト＞ 講義をしながら、様々な参考書やインターネットからの参考資料を紹介する。				
＜参考書・参考資料等＞ 「差し伸べられる手」ヘンリ・J・M・ナウウェン（女子パウロ会、2002年）。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席を前提として、ディスカッションの参加、プレゼンテーション、最終評価 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。				

専門教育科目選択・実践神学関係				
教会実習Ⅱ	ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独		
後期・2単位	＜登録条件＞			
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ セミオティクスとパストラル・ケア				
＜到達目標＞ 象徴学；記号論を通して、学生は自らのアイデンティティをより理解し、又、シンボルを理解することによって、キリスト者を牧会的に助けることができるように成長する。				
＜授業の概要＞ 宗教改革以前、キリスト者は宗教的シンボルを理解し、そのシンボルを通して神との関係や、教会との関係を知ろうとした。しかし、500年前から、プロテスタントの信者は偶像礼拝を避けるため、シンボルから離れてきた。対照的に、正教会とカトリック教会はシンボルを持っているために、自らの信仰との関係がより理解されている側面がある。牧会的な立場から考えると、プロテスタントの信者は神を、愛してくださる親として理解することが難しく、又、イエスを友として理解することも難しくなっていると言える。愛に基づく神や教会との関係は学問的、神学的説明に捉えられる傾向がある。シンボルの健全な理解により、神を父として、又、教会を母として理解することが可能になり、又、堅固な神学的土台の上に、セミオティクス（象徴学；記号論）を通して自らの信仰を理解しようとするキリスト者に魂の牧会ケアを与えることを学びとする。				
＜履修条件＞ 履修登録者が4人に満たない場合は、閉講となる可能性があります。				
＜授業計画＞ 1回目 オリエンテーション 2回目 キリスト教建築 3回目 教会の調度品 4回目 聖職者の礼服、法衣、祭服 5回目 聖書翻訳 6回目 教会音楽と讃美歌 7回目 バプテスマの儀式 8回目 ユーカリストの儀式 9回目 教派 10回目 諸宗教のシンボルの比較 11回目 学生プレゼンテーション 12回目 学生プレゼンテーション 13回目 学生プレゼンテーション 14回目 学生プレゼンテーション 15回目 最終評価				
＜準備学習等の指示＞ 周りの環境のシンボルを熟考する。				
＜テキスト＞ 講義をしながら、様々な参考書やインターネットからの参考資料を紹介する。				
＜参考書・参考資料等＞ 「差し伸べられる手」ヘンリ・J・M・ナウウエン（女子パウロ会、2002年）。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席を前提として、ディスカッションの参加、プレゼンテーション、最終評価 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。				

専門教育科目選択・実践神学関係				
牧会心理学 a	ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独		
前期・2単位	＜登録条件＞			
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 牧会における心理学的課題を学ぶこと。牧会者としてのアイデンティティを養成すること。				
＜到達目標＞ 牧会で直面する様々なケースに正しく対応できるようになる。				
＜授業の概要＞ 牧会的／心理学的課題について講義をし、逐語記録やケース・スタディーで実践的に学ぶ。				
＜履修条件＞ 履修登録者が4人に満たない場合は、閉講となる可能性があります。				
＜授業計画＞ 第1回 牧会カウンセリングの歴史と定義 第2回 宗教と魂 第3回 人格関係の重要性 第4回 傾聴について 第5回 癒し 第6回 認識と洞察 第7回 受容 第8回 結婚と家庭におけるカウンセリング 第9回 ケース・スタディー 第10回 ケース・スタディー 第11回 ケース・スタディー 第12回 ケース・スタディー 第13回 ケース・スタディー 第14回 ケース・スタディー 第15回 まとめ				
＜準備学習等の指示＞ インターネットでカウンセリングに関するビデオを見る。				
＜テキスト＞ ハワード・ストーム『臨死—そして与えられた二度目の人生』 リーハイバレー・ジャパニーズ・ミニストリーズ (2015)				
＜参考書・参考資料等＞ “I am a Church Member”, Thom S. Rainer, (B&H Books, 2013).				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席を前提として、書評、ディスカッションへの参加 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。				

専門教育科目選択・実践神学関係																																																															
牧会心理学 b		ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独																																																												
後期・2単位		＜登録条件＞																																																													
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず																																																														
＜授業のテーマ＞ 牧会における心理学的課題を学ぶこと。牧会者としてのアイデンティティを養成すること。																																																															
＜到達目標＞ ロールプレーを通して、クライアントや牧師の様々な立場から考えることができるようになる。																																																															
＜授業の概要＞ 牧会的／心理学的課題について講義をし、ロールプレーで実践的に学ぶ。																																																															
＜履修条件＞ 履修登録者が4人に満たない場合は、閉講となる可能性があります。																																																															
＜授業計画＞ <u>学習テーマ</u> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr><td>第1回</td><td>オリエンテーション</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>第2回</td><td>ロールプレー</td><td>(一人対一人)</td><td>恋愛</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>ロールプレー</td><td>(一人対一人)</td><td>DV</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>ロールプレー</td><td>(一人対一人)</td><td>ひきこもり問題</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>ロールプレー</td><td>(一人対一人)</td><td>自らを赦す事</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>ロールプレー</td><td>(一人対一人)</td><td>相手を赦す事</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>ロールプレー</td><td>(一人対一人)</td><td>職場でのトラブル</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>ロールプレー</td><td>(一人対一人)</td><td>病名告知</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>ロールプレー</td><td>(一人対一人)</td><td>経済的悩み</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>ロールプレー</td><td>(一人対一人)</td><td>自殺</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>ロールプレー</td><td>(一人対一人)</td><td>霊的に乾いている</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>ロールプレー</td><td>(一人対二人)</td><td>結婚相談</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>ロールプレー</td><td>(一人対二人)</td><td>非行少年[少女]問題</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>ロールプレー</td><td>(一人対二人)</td><td>共に暮らしている親との人間関係</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめ</td><td></td><td></td></tr> </table>				第1回	オリエンテーション			第2回	ロールプレー	(一人対一人)	恋愛	第3回	ロールプレー	(一人対一人)	DV	第4回	ロールプレー	(一人対一人)	ひきこもり問題	第5回	ロールプレー	(一人対一人)	自らを赦す事	第6回	ロールプレー	(一人対一人)	相手を赦す事	第7回	ロールプレー	(一人対一人)	職場でのトラブル	第8回	ロールプレー	(一人対一人)	病名告知	第9回	ロールプレー	(一人対一人)	経済的悩み	第10回	ロールプレー	(一人対一人)	自殺	第11回	ロールプレー	(一人対一人)	霊的に乾いている	第12回	ロールプレー	(一人対二人)	結婚相談	第13回	ロールプレー	(一人対二人)	非行少年[少女]問題	第14回	ロールプレー	(一人対二人)	共に暮らしている親との人間関係	第15回	まとめ		
第1回	オリエンテーション																																																														
第2回	ロールプレー	(一人対一人)	恋愛																																																												
第3回	ロールプレー	(一人対一人)	DV																																																												
第4回	ロールプレー	(一人対一人)	ひきこもり問題																																																												
第5回	ロールプレー	(一人対一人)	自らを赦す事																																																												
第6回	ロールプレー	(一人対一人)	相手を赦す事																																																												
第7回	ロールプレー	(一人対一人)	職場でのトラブル																																																												
第8回	ロールプレー	(一人対一人)	病名告知																																																												
第9回	ロールプレー	(一人対一人)	経済的悩み																																																												
第10回	ロールプレー	(一人対一人)	自殺																																																												
第11回	ロールプレー	(一人対一人)	霊的に乾いている																																																												
第12回	ロールプレー	(一人対二人)	結婚相談																																																												
第13回	ロールプレー	(一人対二人)	非行少年[少女]問題																																																												
第14回	ロールプレー	(一人対二人)	共に暮らしている親との人間関係																																																												
第15回	まとめ																																																														
＜準備学習等の指示＞ カウンセリングを受ける事の様子を考える。																																																															
＜テキスト＞ ハワード・ストーム『臨死—そして与えられた二度目の人生』 リーハイバレー・ジャパニーズ・ミニストリーズ (2015)																																																															
＜参考書・参考資料等＞ “I am a Church Member”, Thom S. Rainer, (B&H Books, 2013).																																																															
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席を前提として、ロールプレーへの参加。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。																																																															

専門教育科目選択・実践神学関係				
臨床牧会教育 a	ウェイン・ジャンセン	<担当形態> 単独		
前期・2単位	<登録条件>			
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず			
<授業のテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。				
<到達目標> 自分の牧会者像を明確にする。				
<授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、实际的にカウンセリングを学ぶ。				
<履修条件> 講義は登録者2人以上から6人未満で成立する。				
<授業計画> *オリエンテーション *院長による精神病理の講義。病院見学。 *病棟で患者と面接を行い、ケアを与えることを学ぶ。 *面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。 *各学生によるケース提出とディスカッションを行う。 第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。				
<準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。				
<テキスト> 必要に応じて配る。				
<参考書・参考資料等> 聖書。				
<学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末面談によって評価する。				

専門教育科目選択・実践神学関係				
臨床牧会教育 b	ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独		
後期・2単位	＜登録条件＞			
教職課程における要件・区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。				
＜到達目標＞ 自分の牧会者像を明確にする。				
＜授業の概要＞ 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、实际的にカウンセリングを学ぶ。				
＜履修条件＞ 臨床牧会教育 a を終えていること。				
＜授業計画＞ ＊各回、各病棟におもむき、患者と出会い、カウンセリングを行う。 ＊面接記録（逐語記録）をつくり、スーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントを得、話し合いをする。 ＊各自のケース・レポートをし、ケース・スタディをする。 第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。				
＜準備学習等の指示＞ 遅刻をしないこと。 休まないこと。				
＜テキスト＞ 必要に応じて配る。				
＜参考書・参考資料等＞ 聖書。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 実習の参加度によって評価する。 期末面談によって評価する。				

専門教育科目選択・実践神学関係				
説教学入門 a	小泉 健	＜担当形態＞ 単独		
前期・2単位	＜登録条件＞			
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず			
＜授業のテーマ＞ 聖書から聞くこと、聞いたことを語ることを、体験的に学ぶ。				
＜到達目標＞ 自分で説教を準備するための土台を身につけること。				
＜授業の概要＞ 説教準備の各段階を意識しつつ、学生各自が発表・実演を行い、それを素材として討論を重ねながら学ぶ。				
＜履修条件＞ ギリシア語初級履修済み、もしくは履修中であること。				
＜授業計画＞ 第1回 「説教とは何か」を考え始める 第2回 「わたし」について語る 第3回 「わたし」と「聖書」と「福音」 第4回 「わたし」と「あなた」と「主イエス」 第5回 聖書を読む、朗読する 第6回 聖書朗読と説教 第7回 聖書に聞く、黙想する 第8回 聖書を読む、釈義する 第9回 聖書を語り直す（その1）対話中心の物語として 第10回 聖書を語り直す（その2）一人称で 第11回 さらに黙想する（その1）説教と教義学 第12回 さらに黙想する（その2）説教と牧会 第13回 説教は何をしているか 第14回 説教を読む 第15回 言葉が語る、言語以外のものが語る				
＜準備学習等の指示＞ 説教学を学ぶ者として、また将来の説教者としての「日々聖書を読む生活」を身に着ける。				
＜テキスト＞ 聖書を持参すること。その他は、必要に応じて教室でプリントを配布する。				
＜参考書・参考資料等＞ 加藤常昭『説教への道——牧師と信徒のための説教学』日本キリスト教団出版局 平野克己『説教を知るキーワード』日本キリスト教団出版局 その他については授業中に文献表を配布する。				
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業での発表とレポート（説教）によって評価する。共通評価指標（1）の②、③、⑤を重視する。				

